

---

2023 (令和5) 年度  
事業報告書

2023

2023(令和5)年4月1日から2024(令和6)年3月31日まで

# 目次

## 大阪阿倍野キャンパス新校舎完成

学校法人藍野大学 大阪阿倍野キャンパス総合整備計画第一期  
明浄学院高等学校新校舎及びアリーナ竣工式を挙行

### 第一 法人の概要

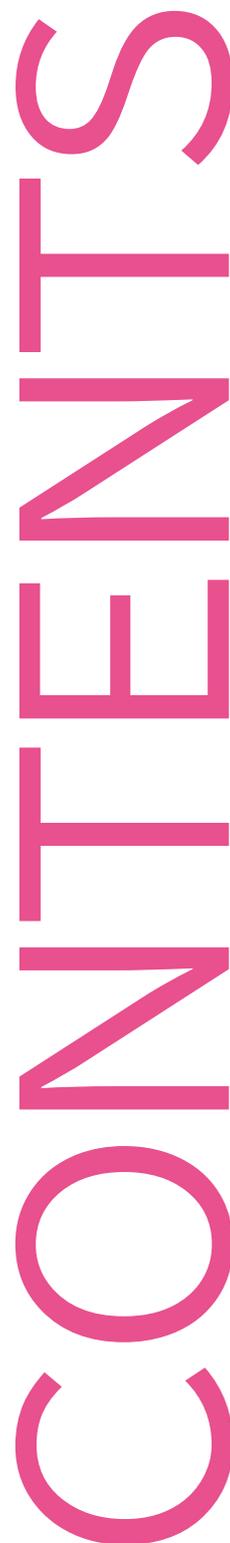
1. 基本情報
2. 建学の精神
3. 学校法人の沿革
4. 設置する学校・学部・学科等
5. 学校・学部・学科等の学生数の状況
6. 収容定員充足率
7. 役員の概要
8. 評議員の概要
9. 教職員の概要
10. その他

### 第二 事業の概要

1. 主な教育・研究の概要
2. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

### 第三 財務の概要

1. 決算の概要
2. その他
3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策



# 大阪阿倍野キャンパス新校舎完成

## 大阪阿倍野キャンパス新校舎完成



2024年4月より明浄学院高等学校の新たな学びの場となる地上4階建ての最新設備を備えた新校舎が大阪阿倍野キャンパスに完成しました。社会の要請に応える教育体制の構築と進路選択の多様性確保を見据えた取り組みを加速し、理想の高等学校教育の具現化を追求してまいります。



### エントランス

情報発信や展示を兼ねたスペースや空間にアクセントを与える照明デザイン、さらには活動を可視化するガラスパーティションを施しています。



### ライブラリー

壁面も活用した自習スペースや気軽に利用できるオープンな相談コーナーが設けられています。



### 看護実習室

20台のベッドを配置できる広々とした設計。患者さん役と看護師役にわかれてロールプレイを行うなど、実践的な医療や看護を学びます。



### 音楽室

防音仕様のミュージックスタジオ。普段の音楽の授業だけでなく、幼児教育専攻のピアノレッスンルームとしても活用します。

# 大阪阿倍野キャンパス新校舎完成

## 明浄学院高等学校新校舎及びアリーナ竣工式を挙



2024年3月9日、アリーナにて「学校法人藍野大学 大阪阿倍野キャンパス総合整備計画 第一期 明浄学院高等学校 新校舎及びアリーナ竣工式」を挙

行し、招待者及び本法人教職員約300名が出席しました。当日は、新校舎とアリーナの施設設計とコンセプトの発表や明浄学院高等学校吹奏楽部によるウェルカム演奏のほか、ご来賓の末松信介様（第27-28代 文部科学大臣 参議院議員）からご祝辞を頂戴し、明浄学院高等学校及び学校法人藍野大学の今後の益々の発展に期待していただきました。

また、大阪府知事 吉村洋文様及び大阪市長 横山英幸様からはビデオメッセージを頂戴し、学校法人藍野大学 内部監査員・アドバイザーリーボードメンバーである若狭勝様（元東京地方検察庁特捜部 副部長・弁護士）からは、「上位者の責任」をテーマに講演いただきました。

小山理事長は、「学校法人藍野大学の建学の精神、教育理念、ミッションステートメントに基づく人間教育に立脚した看護師養成課程における一貫教育を行うための『大阪阿倍野キャンパス AINO NURSE ISLAND 構想』の足掛かりとして本総合整備計画の第一期を完了することができ、教職員一同新たな気持ちでスタートを切りたい」と述べました。



# 第一 法人の概要

## 第一 法人の概要

### 1. 基本情報

- (1) 法人の名称 学校法人 藍野大学
- (2) 主たる事務所及び従たる事務所の住所、電話番号、FAX 番号、ホームページアドレス等
- ①法人事務局 大阪府茨木市高田町 1-22  
http://www.aino.ac.jp/ TEL.072-621-3764 / FAX.072-621-3756
- ②藍野大学 大阪府茨木市東太田 4-5-4  
http://univ.aino.ac.jp/index2.php TEL.072-627-1711 / FAX.072-627-1753
- ③びわこリハビリテーション専門職大学 滋賀県東近江市北坂町 967  
http://aino.ac.jp/professional/ TEL.0749-46-2311 / FAX.0749-46-2313
- ④藍野大学短期大学部  
大阪茨木キャンパス 大阪府茨木市太田 3-9-25  
http://col.aino.ac.jp/index2.html TEL.072-626-2361 / FAX.072-621-1901  
大阪富田林キャンパス 大阪府富田林市青葉丘 11-1  
https://www.aino-jc.jp/otc/ TEL.072-366-1106 / FAX.072-366-1107
- ⑤藍野高等学校 大阪府茨木市東太田 4-5-11  
http://high.aino.ac.jp/ TEL.072-627-1796 / FAX.072-627-1797
- ⑥明浄学院高等学校 大阪府大阪市阿倍野区文の里 3-15-7  
https://www.meijo.ed.jp/ TEL. 06-6623-0016 / FAX.06-6627-1165

### 2. 建学の精神

「愛智精神 [Philo-sophia] にもとづく人間教育」

この建学の精神にもとづき、人間愛と知性と情操を高め、継続的な自己研鑽を基礎に深い探究心をもった医療従事者の養成に努めています。

### 3. 学校法人の沿革

1968年4月1日	医療法人恒昭会 藍野病院附属准看護学院 指定
1975年4月1日	医療法人恒昭会 藍野病院附属高等看護学院 指定
1978年4月1日	医療法人附属を藍野看護専門学校に変更、藍野看護専門学校 看護専門課程・看護高等課程 設置
1979年9月1日	(準)学校法人藍野学院 創立、藍野看護専門学校 設置者変更
1983年3月31日	藍野看護専門学校を藍野医療技術専門学校に名称変更
1985年4月1日	藍野学院短期大学 開学
1986年3月31日	藍野医療技術専門学校看護高等課程准看護科 廃止
1988年3月31日	藍野医療技術専門学校医療専門課程看護科(2年課程) 廃止
1990年4月1日	藍野医療技術専門学校医療専門課程看護学科(2年課程定時制) 設置
1993年4月1日	藍野学院短期大学専攻科(地域看護学専攻) 設置
1993年4月1日	藍野医療技術専門学校看護学科2年課程 定時制から全日制へ変更
1994年4月1日	藍野医療技術専門学校医療秘書・病院管理学科を医療福祉ビジネス学科に名称変更
1996年4月1日	滋賀医療技術専門学校(看護学科、理学療法学科、作業療法学科) 開校
1996年4月1日	藍野医療技術専門学校名を藍野医療福祉専門学校に名称変更
1996年4月1日	藍野医療福祉専門学校介護福祉学科 設置

# 第一 法人の概要

1999年4月1日	藍野医療福祉専門学校医療福祉ビジネス学科 廃止
2001年7月9日	藍野短期大学に藍野加齢医学研究所を附置
2003年4月1日	藍野学院短期大学別科（留学生別科） 設置
2004年4月1日	藍野大学（看護学科、理学療法学科、作業療法学科） 開学
2007年4月1日	藍野学院短期大学看護学科を第一看護学科に名称変更
2007年4月1日	藍野学院短期大学第二看護学科（3年課程） 設置
2007年4月1日	藍野学院短期大学附属藍野高等学校（衛生看護科） 開校
2008年4月1日	藍野大学医療保健学部看護学科 教職課程認定（高等学校教諭一種（看護）・養護教諭一種）
2010年4月1日	藍野大学医療保健学部臨床工学科 設置
2011年3月31日	藍野学院短期大学留学生別科 廃科
2012年3月31日	藍野医療福祉専門学校 廃止
2012年4月1日	藍野大学医療保健学部看護学科 3年次編入学定員変更（20名→5名）
2012年4月1日	滋賀医療技術専門学校理学療法学科 入学定員変更（40名→80名）
2012年4月1日	藍野学院短期大学を藍野大学短期大学部に、藍野学院短期大学附属藍野高等学校を藍野高等学校に名称変更
2013年4月1日	藍野大学短期大学部専攻科（地域看護学専攻）が、独立行政法人大学評価・学位授与機構の定める要件を満たす専攻科としての認定を受ける
2014年4月1日	藍野高等学校衛生看護科 入学定員変更（80名→100名）
2015年4月1日	藍野大学大学院看護学研究科 設置
2016年4月1日	藍野大学再生医療研究所を藍野大学中央研究施設に改組
2017年4月3日	株式会社藍野大学事業部（学校法人100%出資会社） 設立
2017年9月15日	学校法人藍野学院を学校法人藍野大学に名称変更
2018年4月1日	藍野大学医療保健学部看護学科入学定員変更（80名→90名）、3年次編入学定員（5名→2名）
2018年4月1日	キャリア開発・研究センターを藍野大学の附置機関とする
2018年9月1日	メディカル・ヘルスイノベーション研究所を藍野大学短期大学の附置機関とする
2019年3月4日	滋賀医療技術専門学校 募集停止（2019年度生からの募集を中止）
2020年4月1日	びわこリハビリテーション専門職大学 開学
2020年4月1日	藍野大学医療保健学部看護学科入学定員変更（90名→115名）、理学療法学科入学定員変更（80名→90名）
2020年4月1日	藍野高等学校衛生看護科 入学定員変更（100名→120名）
2020年4月1日	藍野高等学校衛生看護科にメディカルサイエンスコースを開設
2020年4月1日	メディカル・ヘルスイノベーション研究所に「あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーション」を開設
2020年8月20日	学校法人明浄学院が運営する明浄学院高等学校を支援すべく支援契約を締結
2021年3月31日	滋賀医療技術専門学校 廃止
2022年4月1日	明浄学院高等学校を学校法人明浄学院から学校法人藍野大学の設置校へ変更

## 4. 設置する学校・学部・学科等

学校	学部（研究科）	学科
藍野大学大学院	看護学研究科	—
藍野大学	医療保健学部	看護学科・理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科
びわこリハビリテーション専門職大学	リハビリテーション学部	理学療法学科・作業療法学科
藍野大学短期大学部	—	第一看護学科・専攻科・第二看護学科
藍野高等学校	—	衛生看護科
明浄学院高等学校	—	普通科

## 5. 学校・学部・学科等の学生数の状況（2023年5月1日現在）

学校種・学部	学 科	入学定員	入学者数	編入学定員	収容定員	現員数
藍野大学大学院	看護学研究科	6	8	—	12	18
藍野大学 医療保健学部	看護学科	115	129	2	464	488
	理学療法学科	100	117	—	400	444
	作業療法学科	40	45	—	160	170
	臨床工学科	40	23	—	160	147
	計	295	314	2	1,184	1,249

# 第一 法人の概要

びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部	理学療法学科	80	87	—	320	278
	作業療法学科	40	18	—	160	88
	計	120	105	—	480	366
藍野大学短期大学部	第一看護学科	100	118	—	200	247
	専攻科	40	40	—	40	40
	第二看護学科	80	77	—	240	275
	計	220	235	—	480	562
藍野高等学校	衛生看護科	120	120	—	360	395
明浄学院高等学校	普通科	200	150	—	600	375
合計		961	932	2	3,116	2,965

## 6. 収容定員充足率（毎年度5月1日現在）

学校種・学部	学 科	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
藍野大学大学院	看護学研究科	1.00	1.08	1.00	1.33	1.50
藍野大学医療保健学部	看護学科	1.17	1.08	1.07	1.05	1.05
	理学療法学科	1.12	1.13	1.14	1.13	1.11
	作業療法学科	1.13	1.18	1.09	1.07	1.06
	臨床工学科	1.03	1.01	1.05	1.05	0.92
	計	1.12	1.10	1.09	1.08	1.05
びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部	理学療法学科	—	0.55	0.83	0.86	0.87
	作業療法学科	—	0.35	0.64	0.64	0.55
	計	—	0.48	0.76	0.79	0.76
藍野大学短期大学部	第一看護学科	1.05	0.96	1.17	1.35	1.24
	専攻科	1.00	1.00	1.00	0.98	1.00
	第二看護学科	1.19	1.16	1.18	1.21	1.15
	計	1.12	1.06	1.16	1.25	1.17
藍野高等学校	衛生看護科	1.04	1.03	0.98	1.04	1.10
明浄学院高等学校	普通科	—	—	—	0.51	0.63
合計		1.06	1.02	1.05	0.95	0.95

## 7. 役員の概要（2023年5月1日現在）

役員・評議員の定員数、氏名、就任年月日、常勤・非常勤の別、業務執行・非業務執行の別、主な現職等

職名	定数	現員	氏名	就任年月日 (重任年月日)	常勤・非常勤	業務執行・非業務執行	主な現職等
理事	第1号	1人	1人	佐々木恵雲	2014年4月1日 (2022年4月1日)	常勤	業務執行 学校法人藍野大学 一貫教育担当常務理事 藍野大学 学長
	第2号	1人	1人	山川正信	2020年4月1日	常勤	業務執行 学校法人藍野大学 総務担当常務理事 びわこリハビリテーション専門職大学 学長
	第3号	1人	1人	足利学	2022年4月1日	常勤	業務執行 藍野大学短期大学部 学長
	第4号	1人	1人	志熊博忠	2021年4月1日	常勤	業務執行 藍野高等学校 校長
	第5号	4人以上 6人以内	6人	小山英夫	2000年11月6日 (2021年4月1日)	常勤	業務執行 学校法人藍野大学 理事長
			鷲見光博	2016年11月28日 (2019年11月28日)	常勤	業務執行 学校法人藍野大学 財務担当常務理事	
			山本嘉人	2014年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	業務執行 学校法人藍野大学 副理事長 びわこリハビリテーション専門職大	

# 第一 法人の概要

	第6号	1人	1人				学 学長補佐	
				清水達郎	2020年4月1日 (2023年4月1日)	非常勤	業務執行	東洋興産株式会社 代表取締役
				奥晃	2021年7月26日	非常勤	業務執行	医療法人恭昭会 法人本部長
				渡邊雅彦	2022年4月1日	常勤	業務執行	明浄学院高等学校 校長
監事	2人	2人	岡山栄雄	2011年7月26日 (2021年4月1日)	非常勤	業務執行	中央総合会計事務所所長 税理士	
			中務未樹	2015年4月1日 (2021年4月1日)	非常勤	—	ブランシュ法律事務所 代表弁護士	
			堀江亮司	2015年4月1日 (2021年4月1日)	非常勤	—	堀江公認会計士・税理士事務所 公認会計士・税理士	

2023年度においては、本法人は役員賠償責任保険契約を締結しました。（役員賠償責任保険契約の適用対象となり得る事案は発生しておりません）なお、本法人は2023年度においては、どの役員とも責任限定契約は締結していません。

## 【役員賠償責任保険契約の概要】

保険会社等：日本私立大学協会（団体契約者）、東京海上日動火災保険株式会社（引受保険会社）

被保険者：契約期間に在任していた役員及び評議員並びに本法人

保険料：538千円、支払限度額：2,000,000千円

支払対象とならない主な場合：法律違反に起因する対象事由等

補償内容の詳細

- (1) 役員（個人被保険者）に関する補償：法律上の損害賠償金、争訟費用等
- (2) 記名法人に関する補償：法人内調査費用、第三者委員会設置・活動費用等

## 8. 評議員の概要（2023年5月1日現在）

評議員の定員数、氏名、就任年月日、主な現職等

職名	定数	現員	氏名	就任年月日 (重任年月日)	常勤・非常勤	主な現職等	
評議員	第1号	1人	1人	佐々木恵雲	2014年4月1日 (2022年4月1日)	常勤	学校法人藍野大学 一貫教育担当常務理事 藍野大学 学長
	第2号	1人	1人	山川正信	2020年4月1日	常勤	学校法人藍野大学 総務担当常務理事 びわこリハビリテーション専門職大学 学長
	第3号	1人	1人	足利学	2022年4月1日	常勤	藍野大学短期大学部 学長
	第4号	1人	1人	志熊博忠	2021年4月1日	常勤	藍野高等学校 校長
	第5号	3人以上 4人以内	4人	渡邊雅彦	2022年4月1日	常勤	明浄学院高等学校 校長
				後藤昌弘	2017年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学医療保健学部 学部長
				酒井浩	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学医療保健学部作業療学科 学科長
				井出千束	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	びわこリハビリテーション専門職大学リハビリテーション学部作業療学科 教授
	第6号	2人	2人	信岡研身	2012年4月1日 (2021年4月1日)	非常勤	医療法人恒昭会藍野病院 看護部長
				本多容子	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学医療保健学部看護学科 学科長
	第7号	10人以上 13人以内	13人	大村卓司	2015年4月1日 (2021年4月1日)	非常勤	茨木市議会議員
				小山英夫	1996年5月30日 (2021年4月1日)	常勤	学校法人藍野大学 理事長
				佐藤基	2022年4月1日	非常勤	藍野高等学校 学事顧問 明浄学院高等学校学事顧問
岡山栄雄				2011年7月26日 (2021年4月1日)	非常勤	中央総合会計事務所所長 税理士	

# 第一 法人の概要

			鷲見光博	2016年11月28日 (2019年11月28日)	常勤	学校法人藍野大学 財務担当常務理事
			山本嘉人	2014年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	学校法人藍野大学 副理事長 びわこリハビリテーション専門職大学 学 長補佐
			青山弘義	2012年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学短期大学部第一看護学科 特任教 授
			飯田英晴	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学短期大学部 副学長
			足利学	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学短期大学部第一看護学科 学科長
			河合まゆみ	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	藍野大学短期大学部第二看護学科 学科長
			小林正明	2018年4月1日 (2021年4月1日)	常勤	学校法人藍野大学 法人事務局 事務局長
			奥晃	2021年7月26日	非常勤	医療法人恭昭会 法人本部長
			泉谷富貴子	2022年4月1日	常勤	明浄学院高等学校 事務センター長
			清水達郎	2020年4月1日 (2023年4月1日)	非常勤	東洋興産株式会社 代表取締役

## 9. 教職員の概要（2023年5月1日現在）

### (1) 教職員数（派遣職員は除く）

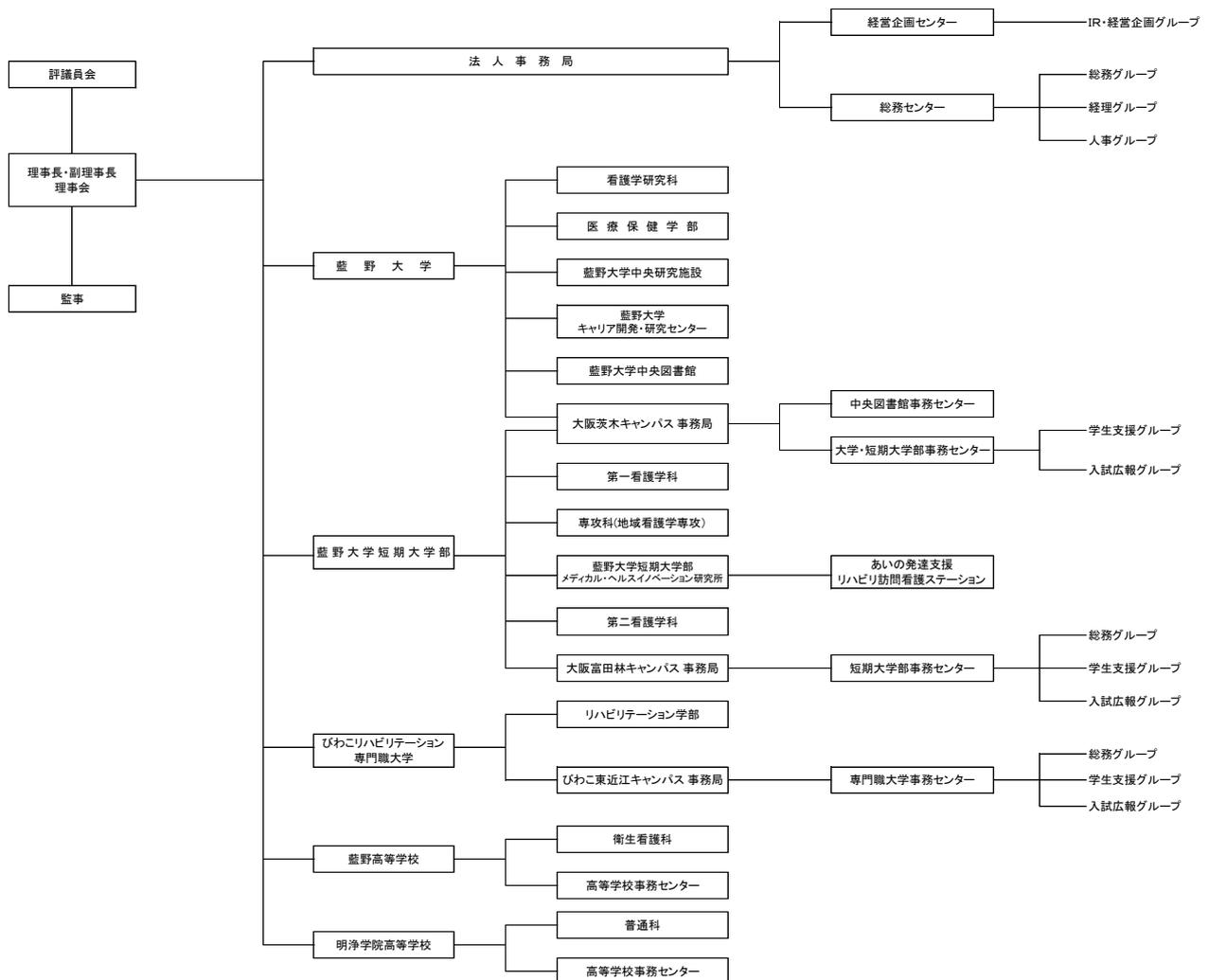
区 分		法人事務局	藍野大学	びわこリハ ビリテーシ ョン専門 職大学	藍野大学短 期大学部	藍野高等学 校	明浄学院高 等学校	計
教員	本務	0	91	43	46	22	32	234
	兼務	0	65	29	52	21	22	189
職員	本務	17	23 (内、図書館4)	12	13	3	3	71
	兼務	3	5	17	3	2	10	40
計	本務	17	114	55	59	25	35	305
	兼務	3	70	46	55	23	32	229

### (2) 平均年齢

区 分		法人事務局	藍野大学	びわこリハ ビリテーシ ョン専門 職大学	藍野大学短 期大学部	藍野高等学 校	明浄学院高 等学校	計
教員	本務	—	49.4	56.3	53.8	43.6	36	49.2
職員	本務	41.1	37.4	43.8	45.1	43.7	47.3	43.4

# 第一 法人の概要

## 10. その他 系列校の状況 (2023年5月1日現在)



# 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

## 第二 事業の概要

本法人では、高等教育機関全体として、18歳人口の減少に伴う規模の縮小や学校経営上の困難といった厳しい事態が生じていることに危機感を持ちつつも、生涯学習ニーズの高まりにより従来型の学生像にとらわれず、社会人学生等幅広い年齢層の積極的な受け入れも視野に入れ、高等教育に対する新しい需要に対応できる学校運営を目指しています。

特に本法人では、「Saluti et solatio aegrorum (病める人々を医やすばかりでなく慰めるために)」という心の通った医療サービスの提供を意味する教育理念のもと、ガバナンスの強化や規程の整備などの管理運営の改善はもちろんのこと、運営基盤の安定化に努めるとともに、現代社会が求める「地域に密着し、心の通った安心できる医療の提供」に応えることができる人材の育成及び教育研究活動を積極的に取り組んでおります。2023年度に取り組んだ主な事業について以下、報告します。

### 1. 主な教育・研究の概要

#### (1) 藍野大学の3つのポリシー

##### ①卒業の認定に関する方針

###### 【医療保健学部】

医療保健学部では、教育目標に照らし、学部および学科で定めた以下のような能力・資質を身につけることを、卒業認定、および、学士の学位授与の方針とする。各学科で定めた卒業要件単位の修得をもって、系統的な履修にもとづく学位授与方針の達成とみなす。

###### I. 知識

医療の基礎的知識に加えて、人や文化、社会情勢、科学技術、環境等に関する基本的な教養を習得している。

###### II. 技能

知識、技術、情報を活用、発信する実践力、コミュニケーション力を体得し、専門職者として科学的根拠に基づいた対応ができる。

###### III. 態度・姿勢

医療人および社会人として必要な倫理観、行動力を備え、生涯学び続けることで日進月歩の医療知識を職務に反映しようとする心構えができている。

###### IV. 協創

医療に関わる全ての人と、調和的、創造的な問題解決が遂行できる。

###### 【看護学科】

###### I. 知識

・医療人の基盤となる保健・医療・福祉に関する幅広い知識を備え、看護学を理解するために必須となる医学的知識ならびに看護実践に求められる看護の専門知識を習得している。

・国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢について学び、良き市民として生きるための豊かな教養として幅広い知識を習得している。

###### II. 技能

・看護実践能力を養うために必要となる論理的・批判的思考を基盤とした臨床的な推論、ならびにコミュニケーション能力やリスク管理能力を包括する看護の専門技能を習得している。

・信頼できる情報源から必要な情報を収集・分析・評価し、適切な解釈のもとで論理的・批判的思考を基盤としたアカデミックな議論ができる。

###### III. 態度・姿勢

・責任のある言動がとれるとともに、多様な個人の価値観に対応できる倫理観を持っている。

・新しい医療の発展に関心を持ち、研究・探求しようとする態度と、科学的根拠に基づいた思考をする姿勢を身につけ、新たな知識や技能を生涯学び続ける意志を持っている。

###### IV. 協創

・多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協力的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。

・看護分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探求ができる。

###### 【理学療法学科】

###### I. 知識

・理学療法を実践するための専門的知識を習得している。

・新しい理学療法学を創造するための基盤となる幅広い科学的知識、人や文化、社会情勢などの知識を習得している。

###### II. 技能

・理学療法を実践するための専門的スキルを習得している。

・アカデミックなテーマを議論するための情報収集、分析、解釈ができ、科学的根拠に基づいて論理的に考える能力を習得している。また、職業生活、社会生活などで必要なコミュニケーション・情報リテラシー・論理的思考力、問題解決力を習得している。

###### III. 態度・姿勢

・理学療法士および社会人として必要な倫理観、行動力を備え、新たな知識や技能への関心と主体的に生涯学び続ける意思を持つことができる。

・科学的根拠に基づいて研究・探究しようとする態度を習得している。また、自律した学習者として自身の学習を振り返りながら、あらゆる問題に対して探究する態度を習得している。

###### IV. 協創

・多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協力的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。

・理学療法分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探求ができる。

###### 【作業療法学科】

###### I. 知識

・作業療法を理解・実践するため、専門的知識と医療・保健・福祉に関する幅広い知識を習得する。

・多様な文化・価値観を理解するため、幅広く豊かな教養を習得する。

###### II. 技能

・対象者への作業療法に必要な情報を選択・収集するとともに、適切な評価・再評価を行うことができ、その結果をもとに理論的な思考をもってアセスメントを組み立てて安全に治療を実践できる。

・望ましい人間関係を構築するためのコミュニケーション能力を有し、科学的モデルを基盤とした論理的主張ができ

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

る。

### Ⅲ. 態度・姿勢

- ・対象者の立場や価値観を尊重した判断を行うとともに、知識や技術に関して最新の知識・技術を保ち、学術的研鑽および人格の陶冶を目指しながら作業療法に貢献ができる。
- ・科学と周辺領域の知識を更新し、常に最新の科学的根拠を使った論理的な視点から物事に対処することができる。

### Ⅳ. 協創

- ・多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協働的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。
- ・作業療法分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探求ができる。

### 【臨床工学科】

#### Ⅰ. 知識

- ・医療人の基盤となる保健・医療・福祉・工学に関する幅広い知識を備え、臨床工学を理解するために必須となる医工学・情報学の知識と医療機器の操作・管理のための専門知識を習得している。
- ・国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢について学び、良き市民として生きるための豊かな教養として幅広い知識を習得している。

#### Ⅱ. 技能

- ・臨床工学技士業務を実践するための専門技能、医療事故を未然に防ぐためのリスク管理能力、患者や医療人と良好な関係を築くためのコミュニケーション能力を習得している。
- ・情報のリテラシーを身につけ、論理的思考と批判的思考を基盤にアカデミックなテーマについても、適切な情報収集により議論・実践でき、その成果をまとめて情報発信できる。

#### Ⅲ. 態度・姿勢

- ・医療の発展に対して常に関心を抱き、探究心を持って問題解決に挑む姿勢を持っている。
- ・現代の多様な社会における様々な価値観ならびに倫理観を身につけ、科学的な根拠に基づいて思考し責任のある言動がとれる。

#### Ⅳ. 協創

- ・多職種を理解することで自身の専門性を知り、チームで協働的な問題解決を進める際にメンバー間で生じる葛藤を乗り越え、問題に対する解決策を考えることができる。
- ・臨床工学分野の発展に寄与するために、自身の問題意識からアカデミックな探求ができる。

## ②教育課程の編成及び実施に関する方針

### 【看護学科】

#### 【編成方針】

看護学科では、ディプロマポリシーを達成するため、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分で構成し段階的に配置する。各区分は、以下のような目標をもつ授業科目で構成される。

#### ア. 基礎科目

- (ア) 国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢についての知識を得る科目を配置する。
- (イ) 医療人の基盤となる幅広い科学知識を得る科目を配置する。
- (ウ) 汎用的技能習得のため、フィールドワーク入門、情報科学Ⅰ、Ⅱなどの科目を配置する。

#### イ. 専門基礎科目

- (ア) 看護の対象である人間理解に関する知識を学ぶため、医療心理学や医療倫理学などの科目を配置する。
- (イ) 健康や医療に関する知識を学ぶため、解剖生理学、病態学などの科目を配置する。
- (ウ) 地域の看護や公衆衛生の知識を学ぶため、疫学や公衆衛生学などの科目を配置する。
- (エ) 協働的な問題解決能力を習得するため、シンメディカルⅠ～Ⅳを配置する。

#### ウ. 専門科目

- (ア) 看護専門職の知識と技能を、基礎から応用の順次性、

体系性に沿って習得するため、基礎看護学分野、専門看護学分野、統合看護学分野の科目を段階的に配置する。

- (イ) 看護実践に必要な、看護の基本的知識と技能を習得するため基礎看護学分野の科目を配置する。
- (ウ) 各年齢層、健康レベル、個人および集団の健康課題等に応じた看護の知識と技能を習得するため、専門看護学分野を配置する。
- (エ) 看護専門職者として生涯にわたり継続して学び続け、看護学を論理的、実践的に理解し、質の高い看護を提供できるようになるため、統合看護学分野を配置する。

#### 【実施方針】

教育課程の実施に当たっては、「看護学教育モデル・コア・カリキュラム」に示された看護実践能力と到達目標をベンチマークに進める。学習方法が身につけられるように、講義・演習ではアクティブラーニングを推進し、実習では「振り返りシート」等を活用した適切なフィードバックを行うことで、講義・演習の学びに統合させる。

#### 【学習成果の評価方法】

- (ア) アカデミックな知識や看護専門職の知識に対し、定期試験やレポートにより評価する。
- (イ) 汎用的な技能や看護専門職の技能に対し、ルーブリックを活用した実技試験や提出課題、自己評価アンケート、卒業研究をもとに評価する。
- (ウ) 医療専門職に必要な態度や姿勢について、関連科目でのレポートや、実習・演習での自己評価アンケート、授業アンケートをもとに評価する。
- (エ) チーム共同的な問題解決やアカデミックな探求について、シンメディカルⅠ～Ⅳや卒業研究などの科目でルーブリックや授業アンケートを活用した総合評価を行う。
- (オ) 各評価項目に対し、実習・演習や卒業研究においてPEPAなどの評価方法を活用する。

### 【理学療法学科】

#### 【編成方針】

理学療法学科では、ディプロマポリシーを達成するため、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分で構成し段階的に配置する。各区分は、以下のような目標をもつ授業科目で構成される。

#### ア. 基礎科目

- (ア) 良き市民として生きるため、また国内外の文化や思想、社会の仕組みや社会情勢についての知識を得るため、哲学入門、文化人類学、世界の保健医療などの科目を配置する。
- (イ) 新しい理学療法学を創造する基盤となる幅広い科学知識を習得するため、数学、物理学、再生医療入門などの科目を配置する。
- (ウ) 汎用的技能習得のため、学びの基盤、文章表現法、統計学、コミュニケーション論などの科目を配置する。

#### イ. 専門基礎科目

- (ア) 医療人として基盤となる保健・医療・福祉に関する幅広い知識を習得するため、社会保障論、社会福祉論などの科目を配当する。
- (イ) 理学療法の基盤となる知識を習得するため、生体構造論、生体機能論、運動学などの科目を配置する。
- (ウ) 協働的な問題解決能力を習得するため、シンメディカルⅠ～Ⅳを配置する。

#### ウ. 専門科目

- (ア) 理学療法の実践に必要な理学療法学の知識と技能を習得するため、理学療法学概論、理学療法評価学、運動療法学、運動器理学療法学、臨床推論などの科目を配置する。
- (イ) 理学療法学を実践的に学び、理学療法士としての態度や技能を習得するため、臨床実習を各学年に配置する。
- (ウ) 理学療法に関する学術的な問いについて研究し、ま

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

たアカデミックスキルを習得するため、医療統計学、理学療法学研究法、卒業研究などを配置する。

### [実施方針]

理学療法学プログラムは4年制で、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3つの科目群から構成される。1年次に主に開講する基礎科目は、良き市民として生きるための教養と、医療専門職の基盤となる知識・態度の習得の涵養を重視する。2年次に主に開講する専門基礎科目は、基礎医学の知識と理学療法士としての思考と態度の涵養が中心である。3年次に主に開講する専門科目は、理学療法の治療学の習得と自己省察の期間で、治療学は講義と実習形式で開講する。4年次は、理学療法士としての臨床能力を総合的に育成する期間であり、臨床実習を中心に行う。

学生の興味・関心に合わせて、「国際医療研修」「住環境コーディネーター」などの選択科目も設定されている。また、1年次から4年次まで、4学科合同でシンメディカルI～IVを開講し、学内において協働的な問題解決能力、チーム医療を段階的に学ぶ。

### [学習成果の評価方法]

- (ア) 理学療法士としての知識に対しては授業中やコースの終了時に試験またはレポートで評価を行う。
- (イ) 理学療法士としての基本的な技能については実技試験を行う。
- (ウ) 理学療法士として備えるべき倫理・態度については2年次と3年次で実施するOSCE-R(客観的臨床能力試験リフレクション法)の中で評価を行う。
- (エ) 理学療法士としての統合的な臨床能力は、学内におけるOSCE-R(PEPA)でルーブリックを使って評価を行う。また学外における臨床実習(PEPA)でも評価を行う。
- (オ) 理学療法士としてのプログラム全体での知識の習得については、国家資格試験で評価する。
- (カ) アカデミックな知識・技能、汎用的な技能については、理学療法学研究法、卒業研究で評価を行う。
- (キ) 協働的かつ創造的な問題解決能力については、シンメディカル科目の中でルーブリックを使って評価を行う。

### [作業療法学科]

#### [編成方針]

作業療法学科では、ディプロマポリシーを達成するため、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分で構成し段階的に配置する。各区分は、以下のような目標をもつ授業科目で構成される。

#### ア. 基礎科目

- (ア) 多様な文化・価値観を理解できる幅広い教養、語学、理系基礎を習得するための科目を配置する。
- (イ) 医療人として求められる基本的態度・倫理観を養い、読解・論理的思考・ライティング・表出などのコミュニケーション力を向上させる科目を配置する。

#### イ. 専門基礎科目

- (ア) 科学的推論過程を根拠とした作業療法の実践を行える能力を習得するための科目を配置する。
- (イ) リハビリテーション理念や人体の構造・機能、心身の発達に関する基礎知識を習得するための科目を配置する。
- (ウ) 作業療法を実施する上で必要となる内科学、神経内科学、整形外科、精神医学、老年医学など幅広い疾患や障害に関する知識と技術を習得するための科目を配置する。
- (エ) 協働的な問題解決能力を習得するためにシンメディカルI～IVを配置する。

#### ウ. 専門科目

- (ア) 作業療法士に必要な専門的知識・技能を習得するため作業療法評価学総論、作業療法評価学演習、作業療法治療学総論、作業療法治療学演習、作業療法学総合演習などの科目を配置する。
- (イ) 作業療法実践の場において、対象者の人としての尊厳を守り、より良い人間関係を構築したうえで、協

力して目標を達成できる能力を養うため、臨床実習を各学年に配置する。

- (ウ) 生涯にわたって学術的探究を行い、自己研鑽するなど、作業療法分野に寄与するための姿勢を養うために作業療法研究法、卒業研究などの科目を配置する。

### [実施方針]

教育課程の実施にあたっては、作業療法士国家試験、臨床実習での実践能力到達目標をベンチマークとして到達度を検証する。各講義科目、演習科目ではアクティブラーニングを推進する。実践能力の到達度の検証については、学内演習科目においても確認を行い、臨床実習での実践的な技能、姿勢、態度の習得につながるように備える。実習科目においては、学内・学外での演習・実習の「振り返り」を重視し、適切なフィードバックを行う中で、学習効果を高める。

### [学習成果の評価方法]

- (ア) 作業療法実践に必要な専門知識に対しては専門基礎および専門科目および総合演習において、定期試験やレポートを通して評価する。
- (イ) アカデミックな知識に対しては基礎科目あるいは専門基礎科目における定期試験やレポートを通して評価する。
- (ウ) 汎用的な技能・態度は、シンメディカルI～IV(PEPA)、臨床実習前後で行うOSCE(PEPA)、卒業研究を通して評価する。
- (エ) 作業療法士として求められる専門的な技能は、演習科目(PEPA)、臨床実習または臨床実習前後で行うOSCE(PEPA)を通して評価する。
- (オ) 作業療法士として望まれる態度は、演習科目(PEPA)、保健医療福祉実習、地域作業療法学演習、総合臨床実習および臨床実習前後で行うOSCE(PEPA)を通して評価する。
- (カ) 協働的かつ創造的な問題解決能力については、シンメディカルI～IV(PEPA)を通して評価する。

### [臨床工学科]

#### [編成方針]

臨床工学科では、ディプロマポリシーを達成するため、教育課程を基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3区分で構成し段階的に配置する。各区分は、以下のような目標をもつ授業科目で構成される。

#### ア. 基礎科目

- (ア) 社会人として豊かな教養を身につけるため、様々な一般教養科目を配置する。
- (イ) 臨床工学を学ぶための基盤を形成するため、工学分野の基礎となる数学、物理学系科目を初年次に配置する。

#### イ. 専門基礎科目

- (ア) 臨床工学を学ぶための基盤知識を習得するため、医学・工学基礎の講義科目と演習科目を配置する。
- (イ) 臨床工学専門科目への導入として、医学、工学、情報学の応用に関する講義・演習・実習科目を配置する。
- (ウ) 協働的な問題解決能力を習得するため、シンメディカルI～IVを配置する。

#### ウ. 専門科目

- (ア) 臨床工学の視点から医療に携わるため、医学、工学、情報学の融合領域に関する講義科目を配置する。
- (イ) 臨床工学技士に求められる専門知識・技能を習得するため、医用機器学(計測装置、治療機器、安全管理など)と生命維持装置学(呼吸療法装置、体外循環装置、血液浄化装置など)に関する講義科目と学内実習科目を配置する。
- (ウ) 臨床工学技士としての応用力・実践力を育成するために、臨床実習I～IVを配置する。
- (エ) 臨床工学技士として生涯にわたる学習の重要性を認識し、かつ主体的に課題を発掘および解決する姿勢を身につけるために卒業研究を、また、日進月歩に発展する医学・工学や医療機器開発の動向を把握す

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

るために臨床工学特論、臨床工学特別演習等の科目を配置する。

### 【実施方針】

教育課程の実施に当たっては、臨床工学技士国家試験や第2種ME技術実力検定試験などをベンチマークとして到達度を検証する。また、アクティブラーニングを積極的に取り入れ、学内・学外の演習・実習の「振り返り」を重視するとともに、医療機器メーカー等で最新の医療機器に接する機会も多く設け、技能の応用力が獲得されたかを検証し、評価する。

### 【学習成果の評価方法】

- (ア) 各科目の成績評価ならびに授業アンケートをもとにして学習成果の達成状況を評価する。
- (イ) 一般教養に関しては基礎科目を、臨床工学分野における医工学の知識に関しては専門基礎科目を中心とした、科目成績評価をもとに学習成果の達成状況を評価する。
- (ウ) 臨床工学技士業務に求められる技能に関しては、臨床実習・学内実習を中心としてPEPA、ルーブリック評価と授業アンケートから学習成果の達成状況を評価する。
- (エ) アカデミック分野における課題抽出ならびにその解決能力と、生涯学習のための技能・態度・姿勢については、卒業研究、臨床工学特別演習などで、ルーブリック評価により学習成果の達成状況を評価する。
- (オ) 臨床工学科カリキュラムを通しては、臨床工学技士国家試験や第2種ME技術実力検定試験などをベンチマークとして学習成果の達成状況を評価する。
- (カ) 臨床工学技士として医療分野に携わりチーム医療を実践するための多職種間連携能力に関しては、シメディカルI～IVならびに授業アンケートから学習成果の達成状況を評価する。

### ③ 入学者の受入れに関する方針

#### 【看護学科】

##### ア. 求める学生像

医療保健学部看護学科では、卒業後に看護職として従事することを前提に、医療専門職に求められる知識技能の修得を図り、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

- (ア) 医療と看護の重要性について理解がある人【知識・技能】
- (イ) 人々の健康や福祉の向上および活動に関心が高く、周りの人々と協働することができる人【主体性・協働性】
- (ウ) 人の話を聴くことができ、自己の考えを相手にわかるように示せる人【思考力・判断力・表現力】
- (エ) 生物、化学、物理、数学を通じて得られる看護に必要な自然科学的思考力と英語、国語の読解力・言語運用能力を有する人【知識・技能】

##### イ. 入学者選抜の基本方針

本学では以下の方法によって評価・判定を行います。

- (ア) 総合型選抜入試  
資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文において医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。
- (イ) 学校推薦型選抜入試  
小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行います。また、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。
- (ウ) 一般選抜入試  
複数科目からなる個別学力試験では、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行います。

##### (エ) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行います。

#### 【理学療法学科】

##### ア. 求める学生像

医療保健学部理学療法学科では、卒業後に理学療法士に従事することを前提に、医療専門職に求められる知識・技能の習得を図り、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

- (ア) 人々の健康、医療、福祉に関心があり、理学療法士の特性、役割、重要性について理解している人【知識・技能】
- (イ) 自分の言動に責任を持ち、周りの人々と協働することができる人【主体性・協働性】
- (ウ) 人の話をよく聞くことができ、道徳的見地から判断し、かつ、論理的に考え、自分が思っていることを相手に理解できるように説明ができる人【思考力・判断力・表現力】
- (エ) 英語・国語の読解および表現能力があり、数学・生物・物理に関する医療系カリキュラムに適應できる基礎知識を有する人【知識・技能】

##### イ. 入学者選抜の基本方針

本学では以下の方法によって評価・判定を行います。

- (ア) 総合型選抜入試  
資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文、小レポート、テストなどにおいて医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。試験内容は、各学科選抜で重視する項目に応じて組み合わせを行い実施します。
- (イ) 学校推薦型選抜入試  
小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行います。また、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。
- (ウ) 一般選抜入試  
複数科目からなる個別学力試験では、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行います。
- (エ) 大学入学共通テスト利用入試  
大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行います。

#### 【作業療法学科】

##### ア. 求める学生像

医療保健学部作業療法学科では、卒業後に作業療法士に従事することを前提に、医療専門職に求められる知識技能の習得を図り、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

- (ア) 日本の医療の現状と作業療法的重要性について理解している人【知識・技能】
- (イ) 人々の健康や福祉の向上とそれに向けた活動に関心の高い人【主体性・協働性】
- (ウ) 人の話をよく聞くことができ、論理的に考え、自分が思っていることを相手にわかるように示せる人【思考力・判断力・表現力】
- (エ) 英語・国語の読解力および言語運用能力があり、医療を理解する上での理科系の基礎知識を有する人【知識・技能】

##### イ. 入学者選抜の基本方針

本学では以下の方法によって評価・判定を行います。

- (ア) 総合型選抜入試  
資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文、小レポート、テストなどにおいて医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。試験内容は、各学科選抜で重視する項目に応じて組み合わせを行い実施します。

### (イ) 学校推薦型選抜入試

小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行います。また、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。

### (ウ) 一般選抜入試

複数科目からなる個別学力試験では、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行います。

### (エ) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行います。

## 【臨床工学科】

### ア. 求める学生像

医療保健学部臨床工学科では、卒業後に臨床工学技士に従事することを前提に、医療専門職に求められる知識技能の習得を図り、生命・人間尊重の倫理観や豊かな感性を磨くため、次のような人物を求めています。

(ア) 多くのことに知的好奇心を持ちチャレンジ精神と探究心を持つ人【知識・技能・主体性】

(イ) 責任感があり実行力があり他者を思いやることができる人【主体性・協働性】

(ウ) 医学と工学に関心があり医療分野で社会に貢献したいという意欲を持ち、創造的に考え行動しようとする

## (2) 藍野大学大学院の3つのポリシー

### ①卒業の認定に関する方針

看護学研究科では、教育目標に照らし、以下のような能力・資質を身につけることを、修業認定、及び修士の学位授与方針とする。2年以上在学し、修了に必要な単位を修得し、かつ修士論文を提出して審査に合格し、加えて最終試験に合格した者に修士(看護学)の学位を授与する。

ア. 高い倫理観に基づいた深い学識と識見及び豊かな人間性をもち、サービスを受ける者の視点に立った実践ができる。

イ. 学際的な視点とリサーチマインドをもって、実践の場での課題を発見し、保健医療福祉に関して深めた知識から、課題解決のための新たなケア技術やシステムの開発を試みることができる。

ウ. 看護専門職者として専門的役割を示すロールモデルとなって、指導力を発揮して教育的役割を果たすことができる。

エ. 保健・医療・福祉のさまざまな領域で看護組織及び看護ケアをマネジメントし、関連多職種と連携し協働することができる。

### ②教育課程の編成及び実施に関する方針

本研究科は、医療技術の発展と少子高齢化の進行に伴い近年急速に高まっている看護サービスの質向上に対する要請に応えるため、高度な専門的知識と技術の上に、深い学識と識見及び豊かな人間性に裏打ちされた看護実践者、看護管理者、教育研究者を養成することを目指した教育課程を編成する。そのため、共通科目には高度な看護実践、管理および教育研究を行う基礎となる科目、保健医療福祉に関する造詣を深め、学際的な視点とリサーチマインドを涵養する科目を配置する。

専門科目では、「成育看護学」「高齢者看護学」「精神看護学」「災害看護学」「地域保健看護学」「看護管理学」「感染管理学」の専門領域ごとに特論科目と演習科目を設

## (3) びわこリハビリテーション専門職大学の3つのポリシー

### ①卒業の認定に関する方針

#### 【理学療法学科】

る人【思考力・判断力・表現力】

(エ) 数学・物理・化学・生物を通じて得られる数理的・自然科学的思考能力を持ち、国語・英語の読解力を有する人【知識・技能】

### イ. 入学者選抜の基本方針

本学では以下の方法によって評価・判定を行います。

#### (ア) 総合型選抜入試

資料読解や数式を用いて解答する基礎力テストや小論文、小レポート、テストなどにおいて医療人に就く前提となる知識や思考力を測り、グループディスカッションや面接を通して他者との協働性、共感能力、主体性、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。試験内容は、各学科選抜で重視する項目に応じて組み合わせを行い実施します。

#### (イ) 学校推薦型選抜入試

小論文や英語・国語・数学分野から選択となる基礎学力試験を行います。また、面接において他者との協働性、共感能力、知性と感性のバランスの取れたコミュニケーション能力などについて評価・判定を行います。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。

#### (ウ) 一般選抜入試

複数科目からなる個別学力試験では、知識、読解力、思考力、文章表現力について評価・判定を行います。

#### (エ) 大学入学共通テスト利用入試

大学入学共通テストにより、知識、読解力、思考力について評価・判定を行います。

け、習得した知識と技術を統合して研究を行い、併せて修士論文を作成する「特別研究」を配置する。

### ③入学者の受入れに関する方針

ア. 大学院教育を通じてどのような力を発展・向上させるのか

本研究科は、実践看護分野と看護マネジメント分野の2つの分野からなる。実践看護分野では、高度な専門的知識を獲得させ、専門職業人たる看護実践能力を向上させ、研究的思考能力を開発するとともに、人々のニーズを汲み取る感性と豊かな表現力を養う。看護マネジメント分野では、複雑な看護課題を解決するために必要な柔軟な思考力、的確な判断力、高度な専門的知識・技能を獲得させるとともに、研究的思考能力を開発する。

イ. 入学者に求める能力は何か

上記ア. を踏まえ、以下の資質、能力を備えた者を入学者として求める。

(ア) 大学卒業程度以上の看護学の基本的な知識・技能を有している人

(イ) 看護学に対する深い関心をもつ人

(ウ) 研究の遂行に必要なコミュニケーション能力、思考力、分析能力及び記述能力のある人

(エ) 高い倫理観のもと、人々の健康のために働く強い意志と協調性をもつ人

(オ) 看護の実践、看護学の教育研究において、自主的に課題を発掘し解決することを志向する人

ウ. 入学者に求める能力をどのように評価するのか

入学者の評価は、小論文と面接によって行う。小論文では主に、知識、思考力、分析能力、記述能力について評価する。面接では、看護学に対する関心、コミュニケーション能力、倫理観、協調性、課題解決志向を中心に評価する。

理学療法学科では、学則に基づき134単位を取得し、以下の能力・資質を備えた人物に理学療法学士(専門職)の学位を授与する。

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

- DP01 人を尊び幅広い教養を有し、高い倫理観のもと、理学療法士としての自覚と責任を持ち、生涯にわたり自己研鑽することができる。
- DP02 理学療法学の専門的知識及び技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な理学療法を実践することができる。
- DP03 多職種と連携でき、対象者と円滑なコミュニケーションをもって、医療・保健・福祉・スポーツなどそれぞれの分野の理学療法を実践することができる。
- DP04 理学療法に関連する他分野の専門的知識を修得し、地域が抱える身体活動に関する課題を発見し、解決方法を考えることができる。

### 【作業療法学科】

作業療法学科では、学則に基づき 134 単位を取得し、以下の能力・資質を備えた人物に作業療法学士（専門職）の学位を授与する。

- DP01 人を尊び、豊かな人間性と高い倫理観、幅広い教養を有し、自覚と責任をもって行動し、生涯学び続けることができる。
- DP02 作業療法学の専門的知識と技術を修得し、論理的思考に基づいた最適な作業療法を検討し、実践することができる。
- DP03 多職種や対象者と円滑なコミュニケーションを通じて協働し、医療・保健・福祉・教育・就労などの場において作業療法を実践することができる。
- DP04 地域社会における多様な生活課題を発見し、作業療法士の専門性を活かした解決方法を考え、提案することができる。

### ②教育課程の編成及び実施に関する方針

#### 【理学療法学科】

理学療法学科の教育課程は、専門職大学設置基準及び理学療法士作業療法士学校養成施設指定規則及びディプロマ・ポリシーに基づき、以下の 5 つの方針で編成・実施する。

- CP01 基礎科目では、初年次教育科目、人間と社会系科目、自然科学系科目、語学教育科目で編成し、医療職になるために必要な教養や倫理観、社会性を身に付ける教育を実施する。
- CP02 理学療法理論科目群では、基礎医学、臨床医学、公衆衛生学、運動学など理学療法学の基盤となる科目を配置し、理論に裏付けられた実践ができる教育を実施する。
- CP03 職業実践科目群では、理学療法に必要な知識、技能、倫理観を学ぶ科目を配し、演習と実習を通して臨床的思考能力を高めるとともに他職種と連携できる実践力を養う教育を実施する。
- CP04 展開科目では、理学療法活動に隣接する分野の科目を配し、地域社会の中で理学療法の新たな価値を創造する教育を実施する。
- CP05 総合科目では、すでに修得した知識および臨床実習を統合するとともに、発表やディスカッションを通して、課題発見・解決力を養う教育を実施する。

#### 【作業療法学科】

総合科目では、すでに修得した知識および臨床実習を統合するとともに、発表やディスカッションを通し、課題発見・解決力を養う教育を実施する。

### (4) 藍野大学短期大学部の 3 つのポリシー

#### ①卒業の認定に関する方針

藍野大学短期大学部では、医療や看護の十分な専門知識を身につけているのみならず、医療環境の変化に対応してゆくことのできる柔軟性を持ち、さらに教育理念にあるように「医やすばかりでなく慰める」ことができる人間性の豊かな医療人を育成することを目指しています。具体的にはカリキュラムに従った学修の結果、以下の項目を満たし、かつ所定の単位を取得した者に対して卒業を認定します。

ア. 看護師あるいは保健師として十分な専門知識と技能を

CP01 基礎科目では、初年次教育科目、人間と社会系科目、自然科学系科目、語学教育科目を配置し、作業療法士になるために必要な教養や倫理観、社会性を身に付ける教育を実施する。

CP02 作業療法理論科目群では、基礎医学、臨床医学、公衆衛生学、運動学など作業療法学の基盤となる科目を配置し、理論に裏付けられた実践ができる教育を実施する。

CP03 職業実践科目群では、実習を通じて作業療法に必要な知識、技術、倫理観などを学ぶ科目を配置し、作業療法過程を学ぶなかで臨床的思考能力を高めるとともに多職種の役割を理解する能力を養う教育を実施する。

CP04 展開科目では、作業療法に隣接する分野の科目を配置し、地域社会の中で主体的に活動し作業療法の新たな価値を創造する教育を実施する。

CP05 総合科目では、すでに修得した知識および技術を発表やディスカッションを通じて統合し、生活課題の解決に向けて、多職種と協働できる教育を実施する。

### ③入学者の受入れに関する方針

#### 【理学療法学科】

理学療法学科の教育目的に定める専門職医療人を育成するために、以下のような人を求めます。

[知識・技能について]

AP01 人々の健康、医療、福祉に関心を持ち、高等学校卒業までに学ぶべき基礎知識を習得している人。具体的には、日本語による表現力を備えており、数学 (I/II/A)・物理・化学・生物 (それぞれ基礎以上) を履修していることが望ましい。

[思考力・判断力・表現力について]

AP02 論理的な思考力や柔軟な発想力を持ち、相手の立場に立って物事を考え、適切なコミュニケーション能力がある人。

[主体性・多様性・協調性について]

AP03 人を尊重し、他者と良好な関係を築くことのできる協調性を持ち、他者の意見に惑わされず、様々な観点から物事を考えることのできる人。

AP04 理学療法士に関心があり、将来理学療法士になる強い意志を持ち、その目標達成に向かって最大限の努力を続けることができる人。

#### 【作業療法学科】

作業療法学科の教育目的に定める専門職医療人を育成するために、以下のような人を求めます。

[知識・技能について]

AP01 高等学校卒業までに学ぶべき基礎知識を習得している人。具体的には、日本語による表現力を備えており、数学 (I/II/A)・物理・化学・生物 (それぞれ基礎以上) を履修していることが望ましい。

[思考力・判断力・表現力について]

AP02 社会の様々な出来事に関心を持ち、客観的に状況を把握でき、自分の考えを文章や言葉で表現できる人。

[主体性・多様性・協調性について]

AP03 他者との交流を通じて、他者の考えや自分の役割を理解し、協力し合える関係性作りができる人。

AP04 リハビリテーションについての関心を持ち、作業療法士を目指して、惜しみなく努力できる人。

身につけている。

イ. 患者あるいは対象となる個人やその家族等と共感を持って接することができる、円滑なコミュニケーションをとることができる。

ウ. 社会人として、また医療人として豊かな人間性と高い倫理性を備えている。

エ. 自己のスキルアップ、新しい知識の修得について意欲的であり、その方法について理解している。オ. 修得した知見を他者に対して論理的に説明できる。

## 第二 事業の概要 (3つのポリシー)

### 【第一看護学科・第二看護学科】

- ア. チーム医療の一員として同僚や他職種の人と協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。
- イ. 医療・保健・福祉における社会資源の知識を持ち、活用方法を考えることで支援システムについて知ることができる。

### 【専攻科 (地域看護学専攻)】

- ア. 地域の健康課題を明確にし、その課題解決に向けて計画・立案する方法を理解している。
- イ. 地域に存在する社会資源の把握及び活用方法を修得し、必要な支援システムや資源について考えることができる。
- ウ. 公衆衛生看護の対象となる個人・家族・集団・組織に対して、対象別の実践方法を理解している。
- エ. 関係機関・関係職種との協調性を保ちつつ積極的に関わることができる。

### ②教育課程の編成及び実施に関する方針

- 藍野大学短期大学部は、育成する人材像をディプロマ・ポリシーで定めています。その目標を達成するために以下の方針で教育課程の編成がなされています。また、学修効果を高めるために、アクティブ・ラーニングなどの教育方法を積極的に取り入れます。
- ア. 基礎分野・専門分野等、保健師助産師看護師学校養成所指定規則に則り、適切に科目を配置する。
  - イ. 基礎科目、専門科目の比率を適切に定める。
  - ウ. 各科目の履修年次、履修順序を最も効果的に学修できるように配置する。
  - エ. 豊かな人間性を涵養するため、幅広い教養教育を行う。
  - オ. 論理的な思考や、それに基づいたプレゼンテーション能力を身に付ける。
  - カ. 専門職業人としての自覚と能力を養うために、臨地実習を重視する。

各科目については、定期試験等により必要となる知識、技能が身についているかを判定します。実習科目は、看護師・保健師としての専門知識及び技能、協調性、コミュニケーション能力等について評価基準を基に、ディプロマ・ポリシーで掲げる能力が身についているかを評価します。

### ③入学者の受入れに関する方針

藍野大学短期大学部 大阪茨木キャンパスで求める学生像

#### 【第一看護学科】

第一看護学科では、卒業後に看護師として従事することを前提に、准看護師から看護師へのステップアップをするために、専門的知識と技術の修得、生命の尊厳を基盤とする倫理観、豊かな人間力を養い、ヒューマンケアを中核としたより実践的な看護の知識・技能の修得を図ります。また、チーム医療の中で看護の役割を果たすことができる人材育成を目指します。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) に定める教育を通じて、ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) に定める学修の成果をあげるために必要な知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた人を求めます。

- ア. 准看護師の基礎的な知識と技術を修得し、看護学を学ぶために基礎的な知識 (国語の読解力や言語運用能力、数学の計算能力) や理解力を身につけている。《知識・技能》
- イ. 相手と気持ちを分かち合い、人の痛みがわかる感性を持ち、かつ自分の意見を発信して、人との関係を大切にできる。《思考力・判断力・表現力》
- ウ. 人や看護に関心を持ち、責任感や協調性を持って明確な目標に対しての実現に努力を惜しまず、主体的に挑戦し最後までやり遂げようとする意欲がある。《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

#### 【専攻科 (地域看護学専攻)】

専攻科 (地域看護学専攻) では、卒業後に保健師として従事することを前提に、地域・企業・学校などの活動の場

において、あらゆる世代やあらゆる健康レベルの個人、家族、さらに集団・組織を対象とした公衆衛生看護活動を展開できる人材育成を目指します。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) に定める教育を通じて、ディプロマ・ポリシー (卒業認定・学位授与の方針) に定める学修の成果をあげるために必要な知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた人を求めます。

- ア. 公衆衛生看護を学ぶための基礎知識 (特に看護学・公衆衛生学など)、看護技術や理解力を身につけている。《知識・技能》
- イ. 物事を多面的に捉え、課題や問題に気づき、その解決に向けて論理的に表現できる《思考力・判断力・表現力》
- ウ. 人々の健康に関心を持ち、責任感や協調性を持って明確な目標に対しての実現に努力を惜しまず、主体的に挑戦し最後までやり遂げようとする意欲がある。《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

藍野大学短期大学部 大阪茨木キャンパス 入学者選抜の基本方針

「アドミッション・ポリシー (入学者受入れの方針)」に基づき、「学力の3要素」である①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」及び③「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価を行います。

#### 【第一看護学科】

- ア. 一般選抜入試では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、小論文や個別学力試験、面接、出願書類等によって総合的に評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①②に重点を置いて判定します。
- イ. 学校推薦型選抜入試では、学校長から推薦され、入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、小論文や面接、出願書類等にもとづいて総合的に学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②に重点を置いて判定します。
- ウ. 総合型選抜入試では、小論文や面接、出願書類等によって、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に見ることで学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②③に重点を置いて判定します。
- エ. 社会人選抜入試では、専門科目や面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①に重点を置いて判定します。

#### 【専攻科 (地域看護学専攻)】

- ア. 一般選抜入試では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、小論文や個別学力試験、面接、出願書類等によって総合的に評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①②に重点を置いて判定します。
- イ. 学校推薦型選抜入試では、学校長から推薦され、入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、小論文や面接、出願書類等にもとづいて総合的に学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②に重点を置いて判定します。
- ウ. 社会人選抜入試では、小論文や面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①に重点を置いて判定します。

藍野大学短期大学部 大阪富田林キャンパスで求める学生像

#### 【第二看護学科】

第二看護学科では、看護に関しての専門的知識と技術の修得、生命の尊厳を基盤とする倫理観、豊かな人間力を養い、ヒューマンケアを中核としたより実践的な看護の知識・技能の修得を図り、チーム医療の中で看護の役割を果たすことができる人材育成を目指します。

カリキュラム・ポリシー (教育課程編成・実施の方針) に

## 第二 事業の概要 ( 3つのポリシー )

定める教育を通じて、ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）に定める学修の成果をあげるために必要な知識・技能や能力、目的意識・意欲等を備えた人を求めます。

ア. 高等学校の教育課程を幅広く修得し、看護学を学ぶために基礎的な知識（国語の読解力や言語運用能力、数学の計算能力、科学的素養）や理解力を身につけている。

《知識・技能》

イ. 相手と気持ちを分かち合い、人の痛みがわかる感性を持ち、かつ自分の意見を発信して、人との関係を大切にできる。《思考力・判断力・表現力》

ウ. 人や看護に関心を持ち、責任感や協調性を持って明確な目標に対しての実現に努力を惜みず、主体的に挑戦し最後までやり遂げようとする意欲がある。《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

藍野大学短期大学部 大阪富田林キャンパス 入学者選抜の基本方針

### 【第二看護学科】

第二看護学科の選抜試験では、「アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）」に基づき、「学力の3要素」である①「知識・技能」、②「思考力・判断力・表現力」および③「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価を行います。

ア. 一般選抜入試では、入学後に必要な基礎学力を有する生徒を選抜するために、小論文や個別学力試験、面接、出願書類等によって総合的に評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、①②に重点を置いて判定します。

イ. 学校推薦型選抜入試では、学校長から推薦され、入学を強く希望する学修意欲の高い生徒を選抜すべく、小論文、面接、出願書類等にもとづいて総合的に学力の3要素を評価します。また知識・技能の観点から、高等学校での学習成績を調査書の「学習成績の状況」により評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②に重点を置いて判定します。

ウ. 総合型選抜入試（高大接続基礎能力、アクティブ・ラーニング）では、講義等理解力試験やディスカッション、受講態度、プレゼンテーション・面接、出題書類等によって、能力・意欲・適性等を多面的・総合的に見ることで学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②③に重点を置いて判定します。

エ. 社会人選抜入試では、小論文、面接、出願書類等で能力・意欲・適性等を多面的・総合的に見ることで学力の3要素を評価します。この入学試験では、学力の3要素のうち、②③に重点を置いて判定します。

# 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

## 2. 中期的な計画及び事業計画の進捗・達成状況

### (1) 藍野大学

[中期的な計画の進捗・達成状況]

中期計画（2020年度～2025年度）の4年目となる2023年度は、公益財団法人大学基準協会による第3期機関別認証評価を受審し、適合判定（2024年4月1日～2031年3月31日）を受けた。1点の長所と2点の改善課題が付されたことを受け、内部質保証システムを有効に機能させ改善・向上に向けた取り組みを行うこととする。

また、私立大学等改革総合支援事業タイプ1の2年連続採択や科学研究費補助金における女性採択比率が全国2位の実績を得るなど取り組みの成果も顕著に表れている。

さらに、大学院健康科学研究科の設置認可や大学院看護学研究科の養護教諭専修免許課程の認定申請など教育力向上に向けた取り組みを実施している。

2024年度は、藍野大学開学20周年、大学院看護学研究科開学10周年の節目の年であることから、記念式典の開催、2025年4月の開設を目的に医療保健学部理学療法学科・作業療法学科・臨床工学科・健康科学科（新設予定）・臨床工学専攻科（新設予定）、看護学部看護学科の2学部5学科1専攻科への改組申請を予定している。

2023年度の検証を本報告書により実施することで、改善・向上に向けた取り組みを実行していくこととしたい。

[事業計画の進捗・達成状況]

#### ①内部質保証に関すること（内部質保証委員会）

【自己点検・評価： A B C D 】

【運営会議評価： A B C D 】

KPI	2023年度計画
内部質保証体制の確立と認証評価	・2022年度に改善した内部質保証システムについて検証する。 ・大学基準協会第3期認証評価を受審する。

#### 2023年度実績

2022年度に改訂した内部質保証システムでは、中期計画に定めた2025年度目標を達成するため、各委員会が作成した「事業報告」及び自己点検・評価の結果を「内部質保証委員会」がとりまとめ、「運営会議」において審議及び承認するとともに、「運営会議」が総合評価を行う体制を構築し、毎年の進捗管理を行い、中期計画に示した2025年度における到達目標の達成度を把握する仕組みを設けている。検証の結果、「運営会議と内部質保証委員会の役割の明確化」と「事業計画を促進する手順の明確化」という課題を残した。大学基準協会第3期機関別認証評価については2023年度に受審し、2024年3月に「2023年度大学基準適合」という評価結果を得た。1点の長所、2点の改善課題が付されたことを受け、次年度以降の改善に役立てることとする。

#### ②教育研究組織に関すること（内部質保証委員会）

【自己点検・評価： A B C D 】

【運営会議評価： A B C D 】

KPI	2023年度計画
国家資格に拠らない新たな学部の設置	・2024年3月に3学部への改組届け出申請が可能となるよう、カリキュラム、教員配置等について準備を進める。
看護学研究科後期博士課程の設置	・博士課程設置に必要な看護学科教員の業績について目標と現状を把握する。
リハビリテーション分野研究科の設置	・申請が認可され次第速やかに学生募集を開始すると共に、学生受け入れ準備を開始する。
看護学研究科助産師課程の設置	・2024年3月に届け出申請が可能となるよう準備を進める。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

2023 年度実績
<p>国家試験に拠らない新たな学部設置については、「医療保健学部健康科学科」を 2025 年 4 月開設に向けて届出申請の準備を進め、文部科学省の事前相談では、「届出」による設置が可能との結果を受けている。2024 年 5 月の申請予定である。博士課程後期課程の設置については、看護学研究科と健康科学研究科が協働できる博士課程設置について両研究科長で討議している。リハビリテーション分野研究科については <b>2024 年 4 月に健康科学研究科第 1 期生 6 名（身体健康科学領域・認知健康科学領域各 3 名）を受け入れた。</b> 学生は 2 年間及び 3 年間で 30 単位を履修し、修士論文作成・発表を行う。看護学研究科助産師課程については当初の予定を 1 年間延ばし、2026 年 4 月開設に向け準備を進めている。</p>

### ③教育課程・学習成果に関すること（教務委員会）

【自己点検・評価： A B C D】

【運営会議評価： A B C D】

KPI	2023 年度計画
アセスメントプラン (学習成果の評価指標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022 年度卒業生を対象とした学習到達度評価結果の集約・検証</li> <li>MLST の結果の集約と検証</li> <li>アセスメントプランの改定</li> <li>これらの学習成果を踏まえた 2024 年度カリキュラム改定に向けての準備と DP の検討</li> </ul>
シンメディカル授業の推進（多職種理解を通して職業の専門性を知り、連携した問題解決の方法について討議・学習する授業）	<ul style="list-style-type: none"> <li>2023 年度新規開講科目であるシンメディカルⅣの準備、実施</li> <li>シンメディカルⅠ～Ⅲの学習到達度評価を見直し、授業内容、評価の再検討を行い、アセスメントプランの改定に反映</li> </ul>
国家試験 100%合格の達成	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科の 2022 年度の結果の集約と対策の強化</li> </ul>
4 年卒業率の向上・退学率の減少	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学科の 2018 年度入学生以降の卒業率、退学率の推移を集約</li> <li>各学科の退学者の理由の集約</li> <li>各学科の成績不良者、進路変更希望学生の対策検討</li> </ul>
累積 GPA 分布による改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>2022 年度 GPA 分布表の作成</li> </ul>
卒業時アンケートの活用並びに満足度の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業時アンケートの集約と分析</li> <li>分析結果を教員間で共有し、満足度の低い点について集約し、改善に向けて検討</li> </ul>
TOEIC 試験スコアの向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC 実施の必要性について検討</li> </ul>
アクティブラーニングによる授業比率	<ul style="list-style-type: none"> <li>アクティブラーニングの授業形態、60%以上の維持</li> </ul>
海外提携大学数の増加、短期留学制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際医療研修、国際看護研修について再開と実施</li> </ul>
データサイエンス教育の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>FD の実施</li> <li>2024 年度カリキュラム改定に向けて、データサイエンス科目の配置の検討</li> </ul>
学修行動調査（授業時間・態度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>オンライン授業を受けてきた 2～4 年生の学修行動について調査の集約と分析</li> </ul>

2023 年度実績
<p>2023 年度卒業生を対象とした学習到達度評価結果の集約と分析を行った。MLST の結果の集約と検証の結果、年々リーディングの点数が低下している。これらについては引き続きテスト結果の集約と検討を行う。これらの結果をふまえて 2024 年度はアセスメントプランの見直しを行う。2020～2023 年度までの学習成果を踏まえ、2023 年度は一般教育科目の見直しを中心に見直しを行い、2024 年度開講の新科目を導入した。</p> <p>シンメディカル授業は、2023 年度もⅠ～Ⅳを実施した。各学年で授業実施後に授業内容の見直しを行い、学生へのアンケート結果も踏まえ、2024 年度も開講する予定である。</p> <p><b>2023 年度の国家試験対策は、全学科 100%を目標として実施した。その結果、看護学科 94.4%、保健師 94.1%、理学療法学科 98.9%、作業療法学科 97.7%、臨床工学科 88.5%</b>であった(すべて新卒)。2024 年度も全学科 100%を目指して対策を継続する。</p> <p>4 年卒業率については、臨床工学科、作業療法学科、理学療法学科が低下傾向にある。2024 年度以降は全学科、4 年卒業率の向上、退学率の減少を目指す。</p> <p>累積 GPA 分布の活用は 2023 年度より各学科で学生指導に活用するようになり、2024 年度も引き続き活用する予定である。</p> <p>TOEIC の実施の必要性については引き続きの検討事項とする。</p> <p>海外提携大学数の増加、短期留学制度の充実については、2023 年度に国際医療研修を再開し、2024 年度も引き続き実施する予定である。</p> <p>データサイエンス教育の強化としては、<b>2024 年度から一般教育科目に「教理・データサイエンス・AI」科目を配置</b>した。この分野の FD については 2023 年度には実施できなかったが、FD・SD 推進部会と連携しながら 2024 年度に研修会などの開催を検討する。</p>

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

2023 年度に 1 年～4 年生に対して学習行動調査を行った。主体的学習態度が年々低下傾向にあり、また学習時間も減少傾向である。一方アルバイト時間は増加傾向にあり、両者は関係していることが推察される。引き続き調査を行う予定である。

### ④学生の受け入れに関すること（入学試験・広報委員会）

【自己点検・評価： A B **C** D】

【運営会議評価： A B **C** D】

KPI	2023 年度計画
高大連携協定校の増加	・現状の 3 校に加え、さらなる増を検討
内部推薦制度の構築	・明浄学院高等学校の看護メディカルコース特別内部推薦に関わる基準を策定
志願者倍率の増加	・大学志願倍率 2.7 倍を目指す ・入試区分別定員数を再検討
入試区分別成績状況、退学率	・1 年終了時の入試区分別平均 GPA が、（全体平均 GPA-0.35）以上であることを目指す ・1 年終了時の退学率 1.5%以内を目指す
修学支援制度の利用者数	・特待生制度 6 名 ・自宅外通学者奨学金給付制度 6 名

#### 2023 年度実績

高大連携協定校について、8 校（**藍野高等学校、明浄学院高等学校、大阪府立千里青雲高等学校、滋賀県立八幡高等学校、大阪府立汎愛高等学校、追手門学院高等学校、樟蔭高等学校、大谷高等学校**）との締結を終えている。今後も連携協定による受験者増加の効果を見極めながら高大連携強化に努める。

内部推薦制度の構築として、**明浄学院高等学校の看護メディカルコース特別内部推薦基準を策定**した。次年度は総合キャリアコースの特別内部推薦についても検討する。

志願者倍率では、2024 年度入学生が 1.7 倍となり、目標の 2.7 倍には届かなかった。入試形態が大きく変化しており、次期中期計画では指定校推薦からの入学増など適切な目標設定を示すことができるよう検討していく。また、2024 年度入学入試では新たな入試区分である「臨床工学体験型選抜入試の導入」、さらには実習地と連動した「地方入試の導入」、「受験科目の変更」など志願者増に繋がる対策を実施し、臨床工学体験型選抜入試や地方入試など一部入試区分については受験者数が増加したが、**臨床工学科、作業療法学科では定員割れ**となった。**入試区分別定員数については全学科で再検討**し、看護学科および臨床工学科が募集状況や入試区分の新設に伴い変更している。さらに 2025 年度入学入試として、新たな入試区分である「作業療法体験型選抜入試」および「看護基礎学力重視型入試」の導入が既に決定している。

入試区分別成績状況では、総合型選抜入試、学校推薦型選抜入試、一般選抜入試の各区分において、それぞれの平均 GPA は（全体平均-0.35）を上回る結果となり、入試区分別に差は生じていなかった。

また、1 年終了時の退学率は 2.55%となり目標には届かなかった。他の教育機関への進路変更や学力不足が要因となっており、引き続き各学科の紹介を丁寧に行っていく。

修学支援制度では、2023 年度入学生の中で特待生制度 8 名、自宅外通学者奨学金給付制度 1 名が利用している。また 2024 年度入学生（一般選抜入試受験学生）に対し「**藍野特別待遇制度**」を設け、25 名の学生が奨学金を受給しており充実を図っている。

次年度は看護学部および健康科学科の設置を予定しており、広報活動に特化した組織改編を計画している。

### ⑤教員・教員組織に関すること（教員組織委員会）

【自己点検・評価： A **B** C D】

【運営会議評価： A **B** C D】

KPI	2023 年度計画
外国人教員の採用、学生に対する指導	・外国人教員の採用について検討する。
教員評価の実施	・教員評価について検討する。
教員のうち博士学位取得率	・70%以上を目指す。
FD・SD 公開研修会の実施（参加率）	・目標に沿った FD・SD 研修会を年間 3 回以上開催し、教職員の参加率 90%以上を目指す。
授業評価アンケートの活用並びに満足度の向上	・2022 年度分の授業評価を分析する。 ・授業評価の時期、内容、方法について検討する。

#### 2023 年度実績

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

外国語科目を担当し、且つ、外国からの留学生に対応できる外国人教員採用については引き続き検討している。教員の新規採用及び昇任人事に際しては、専門分野における知識経験値を担保する学位、研究業績、学生教育及び大学業務への貢献を基に職位毎に求める役目とその程度を別表に定め、判断している。教員の博士学位取得率については目標値には至っておらず、大学院博士課程在籍者が学位を取得しやすい職場環境改善が課題である。FD・SD 研修会 3 回/年は開催することはできたが参加率 90%は達成できていない。2022 年度の授業評価は教学 IR 室で分析し、その結果を教員に周知した。授業評価の内容と方法については十分検討するには至らなかった。

### ⑥学生支援に関すること（学生委員会）

【自己点検・評価： A B C D 】

【運営会議評価： A B C D 】

KPI	2023 年度計画
学習支援システム（manaba）の活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・manaba を用いた学部全体としての学力調査の実施計画</li> <li>・全学科での学習支援の定期的開催</li> </ul>
求人情報システムの刷新	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022 年度に導入・運用開始した「求人検索 NAVI」の使用状況把握</li> </ul>
キャリア講座の設置	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科で実施しているキャリア講座の実態調査・結果の把握</li> <li>・キャリア開発・研究センターとの共催で認定理学療法士養成講座の申請手続き・登録</li> </ul>
卒業研修会の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に引き続き、校友会と連携し卒業研修会の開催</li> <li>・各学科で行っている卒業教育の実施状況把握</li> </ul>
施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・MLC1 階カフェスペースの有効活用を検討し、仲介業者の選定と実施</li> <li>・キッチンカーの導入（学生へのサービス向上）による中庭などのスペースの有効活用</li> </ul>
バイク通学制度の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイク通学の有効性の検証と必要制度の制定、運用準備</li> <li>・バイク通学に伴う駐輪場の整備</li> </ul>

2023 年度実績
<p>全学部としての学力調査については、看護・臨工、理学・作業の 2 群に分けて実施問題の検討を行ったが、今期中の実施には至らなかった。基礎科目（解剖・生理学等）の学習内容が 2 群で異なるため、共通問題としての内容を決定できていない。次年度には問題策定を行い、実施したいと考える。</p> <p>学科での学習支援については、看護・理学・作業療法学科では、各学年の担当教員（担任）を決め、1 回/週以上の実施ができた。ただ、単位外科目での実施であるため、参加率の悪さが各学科に共通する問題であった。次年度には実施に伴う効果検証が必要である。臨床工学科においては、学習低迷者に対する面談や個別指導は行ったものの、各学年での定期的な実施には至らなかった。今後入学者の学力低下が危惧されるなか、抜本的な学習支援体制の改革が必要である。</p> <p>「求人検索 NAVI」の使用状況は、2023 年 3 月から 2024 年 1 月までの 11 ヶ月間の総アクセス数は 2,983 回であり、理学・臨工では月単位の平均アクセス数が平均 100 回を超える状況であり、学生数から考え臨床工学科の利用率が非常に高かった。看護・作業においては月単位のアクセス数は平均 25 回程度と少ない状況であった。ただ、看護においては就職内定が非常に早い時期に決定するため、他学科のアクセス数が多い夏（6～8 月）時期には低く、春先に集中する傾向があった。しかし学部 4 年生の総数に対する利用率はまだ低いと考える。今後卒業時アンケートの内容を集約・検討し、利用率の向上に努めたい。</p> <p>キャリア講座の設置については、キャリア開発・研究センターとの共催で「認定理学療法士臨床認定カリキュラム教育機関」を申請し、教育機関として承認された。</p> <p>卒業研修会の開催については、校友会と連携し今年度も藍野祭の特別講演として実施した。しかし、参加数が少なく、今後実施方法も含め再検討が必要である。卒業研修会は、理学療法学科では、2023 年度は 2 回実施し参加者は 1 回目 42 人、2 回目 30 人であった。作業療法学科では、1 回/2～3 ヶ月の割合で実施しており、参加者は平均 7～8 名程度であった。臨床工学科では、コロナ禍で中止しており今後再開予定である。大学の中期計画でもある、「卒業後の継続的な支援によるシームレスな学びの場の提供」に向け、積極的な活動を実施する。</p> <p>大学施設の有効利用については、MLC1 階カフェスペースの利用方法について希望業者との検討を行い、2024 年 4 月より運用開始予定となっている。キッチンカーの導入に関しては、2023 年 5 月より株式会社藍野大学事業部に運用委託を行い、2 台のキッチンカーが 1～2 回/週で開店している状況である。学生委員会としては学生へのアンケート調査を実施した。今後アンケートの集計を行いより希望に添えるような内容での運用を事業部へ提言していく。</p> <p>バイク通学に関しては、今年度中に規定の作成、必要書類の作成、駐輪場の設置を行い、2024 年度より運用開始予定となった。運用開始にあたり今後様々な問題への対応を順次検討し、安全なバイク通学を定着させる必要がある。</p>

### ⑦教育研究等環境に関すること（教育・研究推進委員会）

【自己点検・評価： A B C D 】

【運営会議評価： A B C D 】

KPI	2023 年度計画
-----	-----------

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

科学研究費補助金採択数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採択数 10 件程度</li> <li>・今年度採択研究者の氏名とテーマをホームページで公開</li> <li>・科研費採択者の研究内容について講演</li> <li>・採択数増加のために申請内容の事前チェック体制の強化</li> </ul>
科研費以外の競争的研究資金採択数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採択数 5 件程度</li> <li>・科研費以外の競争的資金募集情報の集約と Slack による教員への情報提供による応募者増</li> <li>・科研費以外の競争的資金獲得研究者の氏名とテーマをホームページで公開</li> </ul>
受託研究、奨学寄附金件数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採択に向けての研究強化</li> <li>・産学協同事業の展開とトランスレーショナルリサーチの強化</li> </ul>
研究員、客員研究員の受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規研究員、客員研究員を選出</li> <li>・連携企業における研究員の受け入れ</li> </ul>
特許出願及び取得	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規の特許取得に向けて研究を推進</li> </ul>
中央研究施設による論文発表及び知的財産の管理及び活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中央研究施設における研究成果を発表（8 編）</li> <li>・中央研究施設のホームページにおける研究活動の広報強化</li> <li>・中央研究施設を利用した学部生の卒業研究を推進</li> <li>・藍野高校や連携高校の中央研究施設利用を推進</li> </ul>

2023 年度実績
<p><b>2023 年度新規科学研究費補助金採択数は 6 件であるが、継続課題を合わせると採択数は年々増加傾向</b>にある。昨年度より科研費採択数増加に向けた試みとして優秀研究賞と研究奨励費の支給に加えて、科研費の事前レビューを行った。その結果、3 件の希望があり、そのうち、2 件は 2024 年度科研費で採択となった。効果の検証も含め、事前レビューは継続することとする。科研費以外の外部資金の採択に向けて Slack での情報提供を始めており、応募者の増加が期待される。高大連携による中央研究施設の利用については、今後の課題である。その他は概ね、予定通りに推移した。</p>

### ⑧社会連携・社会貢献（社会貢献委員会）

【自己点検・評価： A B C D 】

【運営会議評価： A B C D 】

KPI	2023 年度計画
提携プロスポーツ団体の増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たにプロスポーツ団体（障がい者スポーツを含む）との連携を検討</li> </ul>
健康増進事業の連携先からの評価・改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実施プロジェクトの効果検証を実施</li> <li>・自治体や介護予防事業への大学教員及び学生の参画。</li> </ul>
市民公開講座の参加実績増加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学部レベルを企画し、実施（対面による講座）。合計 200 名の参加目標</li> </ul>
藍野グループ（病院等）で開催する市民公開講座への学生・教員の参加数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藍野大学教員及び藍野病院スタッフの共同による市民公開講座を実施</li> </ul>
藍野グループ共催イベントへの学生参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藍野大学教員及び藍野グループスタッフによる太田地区の高齢者を対象とした身体機能測定会を実施する。</li> <li>・藍野病院「まちの保健室」が再開された場合は、大学教員及び学生の参画。</li> </ul>
包括連携協力協定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連携協力協定を新たに 2 施設以上締結する。</li> </ul>

2023 年度実績
<p>本年度も各学科単独だけではなく学部としてのイベント「市民公開講座」や地域貢献イベント「はつらつと生きるための健康講座」「茨木市南保健福祉センター×藍野大学共同研究」などを対面で実施できた。</p> <p>茨木市との共同研究では、市民を対象とした 2 ヶ月間の介入研究を実施しており、取り組み結果（効果）を茨木市ならびにご参加いただいた市民の方にも報告した。そして共同研究実施後に茨木市との会議を開き効果検証も実施できた。市民公開講座は藍野大学・藍野大学短期大学部・びわこリハビリテーション専門職大学の共催のもと開催することができ、参加者は合計 104 名で目標の 200 名には到達していないが、徐々に参加人数が増えてきている。また本年度は、積極的に自治体イベント「茨木市ミルシルフェスタ・いばらき×立命館 Day2023・茨木市健康フェス・太田地区敬老会」等に出展し、教員だけではなく学生もボランティアとして参加することができた。さらに、昨年度より Slack を使用しボランティア情報を 4 学科の学生に情報発信しており、学生のボランティア活動を支援する動きも定着してきた。</p> <p>2023 年度は新たに 2 つの医療法人と包括連携協定を締結しており、すでに締結している施設の防災訓練に学生が参加するなど少しずつ交流活動が広がってきている。</p> <p>2024 年度も学部レベルでのイベントを実施するだけではなく、藍野グループ共催でのイベントを企画し、教員だけではなく学生がイベントへ参加できる機会を積極的に設けていく。</p>

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### ⑨藍野大学中央図書館（中央図書館）

【自己点検・評価： A B C D 】

【運営会議評価： A B C D 】

KPI	2023 年度計画
市民に開かれた図書館として、市民開放	・閲覧スペース更新工事の実施
書籍に対する興味・関心の向上	・図書館行事の積極的実施 ・電子リソースの利用促進強化

2023 年度実績
市民開放へ向けての年次計画は順調に進んでおり、2023 年度は経年劣化した空調設備を全面更新した。また、かねてから要望の高かった 3 階の無線 Wi-Fi 化工事も完了し施設面の利便性が高まった。学生の書籍に対する興味・関心は主に Slack 等の SNS を駆使、および期間限定の学内での移動対面図書館実施の両面から施策を講じた。

### ⑩キャリア開発・研究センター（キャリア開発・研究センター）

【自己点検・評価： A B C D 】

【運営会議評価： A B C D 】

KPI	2023 年度計画
認定看護管理者教育課程	・セカンドレベルにおける新たな受講生の開拓 ・近隣病院 20 施設以上への訪問活動の実施
認定理学療法士養成講座の開設	・2024 年度の開設に向けた認可申請 ・認可後における近隣施設への募集活動の実施
大学院進学者の増加	・セカンドレベルでの募集アプローチ強化 ・キャリアからの進学者を 1 名以上確保
病院独自奨学金の獲得	・包括連携協定病院への設置に向けた依頼準備 ・新ホームページでの提携先募集ページ設置
公開講座	・あいの祭とコラボした卒業生対象講座の継続実施 ・ジャンルや対象にとられないイベントの立案

2023 年度実績
<p>当センターの主力事業である「<b>認定看護管理者教育課程</b>」ファーストレベルは本年度も定員充足となり、セカンドレベルにおいても過去最高の受講生数（33 名）を獲得した。特に、教育訓練給付制度の利用促進を図るため広報にも尽力した結果、利用者数はファーストレベルで 23 名（昨年 17 名）、セカンドレベルで 11 名（昨年 5 名）となり、当講座の魅力度アップにつながった。しかしながら、セカンドレベルの定員には若干届かなかったため、完全充足は次年度へ持ち越しとなった。また、昨年度に続き、講座修了生から本学大学院への進学者を輩出できなかったため、今後のアプローチ方法を改めて検討する必要がある。</p> <p>次に、2024 年度の新規開設に向けて認可申請を行っていた「認定理学療法士臨床認定カリキュラム（運動器）」であるが、3 月に日本理学療法士協会より無事に教育機関としての認定を受けるに至った。これを受け、事前準備を行っていたホームページを早々に公開するとともに、4 月より各施設や卒業生に対する本格的な広報活動を展開していく。</p> <p>次いで、主として卒業生を対象とした公開講座であるが、本年度も校友会の協賛を受けて飯田英晴副学長による「人はなぜ苦手な人をつくるのか」と題するセミナーを開催した。「あいの祭」と同時開催とすることで、卒業生のみならず一般来場者もご参加いただき、終始和やかな雰囲気での進行となった。</p> <p>最後に、スカラシップ支援事業に位置づけている病院独自奨学金獲得については積み残しとなったため、次年度は本格的な検討に着手する予定である。</p>

### (2) びわこリハビリテーション専門職大学

[中期的な計画の進捗・達成状況]

2023 年度は新キャンパスの開設へ向けた準備、教育課程の改正、言語聴覚療法学科の設置と大きな事業が多くあったが、おおむね計画通り進捗しました。

教育活動に関しては、完成年度を迎え初めての卒業生を輩出しましたが、国家試験の合格率は 100%を達成することができず、課題が残る結果となりました。就職状況は国家試験に合格した学生で就職を希望

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

する学生は全員就職することができ、不合格となった学生も病院での助手、その他機関での非常勤職員としての採用が決まり、次年度の国家試験合格を目指します。

学生募集については、2024 年度入学生は理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚療法学科ともに入学定員を満たすことができず、課題が残る結果となりました。

2025 年度の中期計画の最終年の目標達成に向けて様々な取組を積極的に進めるとともに、次期中期計画の策定に向けた取組を始めます。

### [事業計画の進捗・達成状況]

#### ①教育組織の改編（大学運営会議）

KPI	2023 年度計画
言語聴覚療法学科の開設	2023 年 5 月に設置届出を行い、2024 年度開設を目指す。
総合リハビリテーション学部への名称変更	2024 年度から変更するための申請を行う。
理学療法学科、作業療法学科の入学定員の変更	言語聴覚療法学科の設置届出(入学定員 20 名)とあわせて、理学療法学科、作業療法学科の入学定員を変更するための申請を行う。

2023 年度実績
2023 年 5 月に言語聴覚療法学科の設置届出、指定申請を行い、7 月に大学設置室から届出受領の連絡、9 月に医学教育課から言語聴覚士学校としての指定の通知があり、計画通り 2024 年度の開設ができました。言語聴覚療法学科の設置と併せて理学療法学科、作業療法学科の入学定員の変更(理学療法学科 80 人→70 人、40 人→30 人)の申請を行い、いずれも承認されました。なお、学部名称の変更については引き続き進めてまいります。

#### ②教育の内部質保証、教育成果の可視化の構築（自己点検・評価委員会）

KPI	2023 年度計画
内部質保証体制の構築・運用	アセスメントプランに基づき 4 年間の評価を行う。
IR 機能の強化、IR 情報の公開	完成年度を迎え、4 年間のデータ分析を行い、公表する。
教育成果の可視化	学習行動調査、授業評価アンケート、卒後アンケートの実施により教育成果の可視化を図る。
国家試験合格率 100%の達成	1 期生の国家試験合格率 100%を目指した国家試験対策を実施する。
リハビリテーション教育評価機構教育評価受審	完成年度を迎え、リハビリテーション教育評価機構の教育評価を受審し、認証校として認定を受ける。

2023 年度実績
アセスメントプランに基づき、4 年間のデータを収集するとともに、教学 IR では研修等を行いました。2024 年度に各データの分析・公表をする予定です。 教育成果の可視化では、授業評価アンケート及び卒業生アンケートを実施しました。2024 年度には、4 年間の学習状況、国家試験の結果などのデータを分析し、教育内容の改善に取り組みます。 <b>国家試験は、理学療法学科が受験者 39 名中 32 名が合格（合格率：82.1%）、作業療法学科が 7 名中 6 名が合格（合格率：85.6%）</b> との結果となり、目標の 100%には届きませんでした。 完成年度を迎えリハビリテーション教育評価機構の教育評価を受審し、機構の認める認証校として認定されました。また、作業療法学科は世界作業療法士連盟（WFOT）の認定校として認定されました。

#### ③専門職大学ならではの実践的な職業訓練（教務委員会）

KPI	2023 年度計画
各フィールドを利用した臨床実習	環びわ湖大学・地域コンソーシアム 大学地域連携課題解決支援事業への学生の参加

2023 年度実績

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

環びわ湖大学・地域コンソーシアムの大学地域連携課題解決支援事業において、理学療法学科の「いきいき生活プロジェクト～体力チェックで健康寿命を延ばしましょう～」及び作業療法士学科の「山間部に暮らす高齢者と共に考える LIFE～健康いきいき作業療法プロジェクト～」が採択され学生の自発的な行動を促すために非常に有意義なものとなりました。他にも平和堂の「みんなの広場」での学生や教員による市民向けイベントの実施など、病院等での実習以外の活動のフィールドを広げています。

### ④地域でリハビリテーションを実践できる人材の養成（大学運営会議）

KPI	2023 年度計画
教育課程連携協議会の開催	9月と3月に実施する。
教育課程の改正	完成年度後を視野に入れ、ワーキンググループを設置。検討を始める。

2023 年度実績
<p>本学は「地域共生社会の実現に資する人材の養成」を教育目標に掲げており、その達成に向け、職能団体、実習先、行政の関係者及び本学教員から構成される教育課程連携協議会を設置しています。</p> <p>2023 年度は 9 月と 3 月に開催し、言語聴覚療法学科の開設、新キャンパスの開設などについて意見、助言等をいただきました。</p>

### ⑤開かれた大学として卒業後の知識のアップデートの支援（実習支援センター）

KPI	2023 年度計画
滋賀県理学療法士会、作業療法士会との研修会の共催	研修会実施へ向けた打ち合わせの開始
臨床実習指導者講習会の実施	理学療法士臨床実習指導者講習会を年 1 回、作業療法士臨床実習指導者講習会を年 1 回実施する。

2023 年度実績
<p>滋賀県理学療法士会、滋賀県作業療法士会が主催する研修会に本学の教員を講師として派遣し、研修会場として本学キャンパスを活用しました。</p> <p>義務化された臨床指導者講習会は、予定通り理学療法学科で 1 回、作業療法学科で 1 回開催し、実習指導者の養成にも取り組みました。</p> <p>その他、本学教授によるスキルアップセミナーを両学科ともに開催し、実習施設から多数の理学療法士、作業療法士等の医療従事者が参加されました。理学療法学科では、呼吸器疾患に対する研修会を 3 回、運動器疾患に対する研修会を 1 回、作業療法学科では発達障害をテーマに研修会を 1 回実施し、卒業教育の一環として教育の機会を提供することができました。</p>

### ⑥教育力、研究力向上のための組織的取り組み（FSD 推進委員会）

KPI	2023 年度計画
FD・SD 研修会の実施（参加率）	年 3 回実施予定
科学研究費補助金応募数（採択数）	15 件以上
科研費以外の競争的研究資金採択数	2 件以上

2023 年度実績
<p>研究活動推進の取組として、2025 年度には専任教員の 90%以上の応募を目指し科学研究費補助金や他の外部資金の獲得に向け、研究環境の整備を進めましたが、科研費は 13 件の応募に対して採択：1 件となり、科研費以外の競争的資金については採択されませんでした。</p> <p>また、医療、保健、健康増進などの研究分野の発展に貢献するため、本学の紀要「びわこ健康科学」の第 2 号が刊行されました。教育力向上のための FD・SD 研修会は、ワークショップを含め 4 回実施しました。</p> <p>FD・SD 研修実施状況</p> <p>第 1 回 2023 年 6 月 15 日(木)</p> <p>(1)「専門職にとって研究とは」 理学療法学科 教授 千住秀明</p> <p>(2)「科研費申請のためのコンプライアンス」リハビリテーション学部 学部長 山田久夫</p> <p>(3)「令和 4 年度大学設置基準の改正について」事務センター センター長 中村剛至</p> <p>第 2 回 2023 年 7 月 20 日(木)</p> <p>(1)「本学の合理的配慮の実状」 学習支援センター 教育的ニーズ検討部会長 分木ひとみ</p> <p>(2)「2022 年度学習行動調査報告」IR 室長 埴田和史</p>

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

(3)「2022年度授業評価アンケート結果報告」事務センター学生支援グループ長 丸山泰弘 第3回 2023年9月1日(金) (1)第1回びわこ大教職員ワークショップ～開学以降の経験を振り返って、2024年度以降の大学を構想する～ 第4回 2022年9月21日(木) (1)「びわこリハビリテーション専門職大学の教学IRの取組と今後の展望」 事務センター学生支援グループ長 丸山泰弘 (2)「藍野大学の教学IRについて」 藍野大学医療保健学部理学療法学科 講師 教学IR室 杉山 芳生
---

### ⑦施設更新による魅力あるキャンパスづくり（大学運営会議）

KPI	2023年度計画
キャンパスの改修、機器備品の充実	言語聴覚療法学科設置に伴う実習室の設置、機器備品の購入
びわこ八日市キャンパスの開設	改修工事の実施及び機器備品の設置

2023年度実績
びわこ八日市キャンパスの改修工事とそれに伴う教育機器の設置を行いました。 また、びわこ東近江キャンパスでは、以下の教育研究用機器備品を購入し、教育環境の改善を図りました。 購入機器備品 ①干渉波治療器(フィジオ5D) ②感覚統合器具スタートセット また、びわこ東近江キャンパスでは、防犯カメラの設置、放送設備の更新を行うなど施設設備の改善も進めました。

### ⑧独自の修学支援システムを活用したキャリア支援（就職支援委員会）

KPI	2023年度計画
求人情報システムの更新	本格運用の開始

2023年度実績
<b>2023年度に初めての卒業生を輩出</b> するにあたり、本格的に運用を開始しました。

### ⑨合理的配慮が必要な学生への支援体制の強化（学習支援センター）

KPI	2023年度計画
体制の整備・運用	教職員への合理的配慮に関する啓発活動

2023年度実績
合理的配慮に関して、教職員間の認識の共有を図るための情報発信・啓発に取り組むとともに、円滑な実施が行えるよう様、学内連携体制を整備しました。また、高校から合理的配慮の実施に関する問い合わせがあったことを契機に、当該学生が本校を選択し、入学前より高校と連携することにより、入学時より合理的配慮を行うことが可能となった事例もありました。

### ⑩地元自治体・各種団体・組織・スポーツチーム等との連携強化（大学運営会議、入試広報委員会）

KPI	2023年度計画
地元自治体との包括協定の締結	滋賀県、東近江市、日野町と協定を締結。 協定に基づき、連携事業を推進する。
スポーツチーム・各種団体・組織等との協定の締結	理学療法士会と共同で中高生、保護者への広報及び啓発活動の実施。 アカデミックパートナー協定を結んでいる滋賀レイクスターズとは、学生ボランティアの派遣、インターンシップの実施、選手又は運営スタッフからの特別講義を予定している。

2023年度実績

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

本学の目的でもある地域共生社会の実現に向け、**東近江市との連携事業として、環びわ湖大学・地域コンソーシアム事業や地域強化推進事業を実施するとともに、滋賀県から令和5年度障害者スポーツ地域促進モデル事業を受託して実施**しました。

また、**甲賀市からの受託事業として、在宅医療介護連携推進事業を実施**しました。

リハビリテーション専門職の理解促進のため、理学療法士会、作業療法士会、言語聴覚士会と合同で、令和6年1月13日に「健康しが大明神〜リハビリテーション専門職からのプレゼント」を実施しました。当日は約200名の参加があり、地域の幅広い年代の方々本学を広報するいい機会となりました。専門職大学の知名度やブランド力向上のため、引き続きこうした取組を推進してまいります。

また、東近江メディカルケアネットワークや滋賀県及び東近江市の国スポ・障スポ準備委員会へ参画するとともに、滋賀レイクスとのインターンシップやトレーナーによる講義等を実施しました。

### ⑪学生募集の戦略的な取り組み（入試広報委員会）

KPI	2023年度計画
志願者倍率	(名目) 志願者倍率を理学療法学科3.0倍、作業療法学科2.0倍以上
滋賀県外からの入学者の比率	志願者の12%以上(2023年度は約8%)
収容定員充足率	91%(2023年4月時点77%)

#### 2022年度実績

学校経営において、入学定員および収容定員の確保は最重要課題の一つであり、志願者倍率、県外からの入学者の比率、収容定員充足率について目標値を掲げました。この目標達成のため、社会人入学者の増加を狙った関連団体・病院・施設へのアプローチ、高校生が受験しやすい入試制度への改革、指定校推薦入試対象校のエリア拡大、オープンキャンパスの充実化などを軸とする様々な施策を講じました。

これに対しての実績は、志願者倍率1.09、県外からの入学者の比率4%、収容定員充足率80%となり、昨年度に続き目標達成に至ることはできませんでした。特に県外入学者や社会人入学者の獲得はかなり困難な状況であり、この結果を十分に分析したうえで、学生獲得に向けて今後さらなる改善を図ります。

**[2023年度募集実績(2024年度入学者数)]**

**理学療法学科 68名、作業療法学科 19名、言語聴覚療法学科 7名、計 94名**

### ⑫高校との連携協定による専門職大学の認知度向上（入試広報委員会）

KPI	2023年度計画
高大連携校数	5校(2023年4月時点 4校)

#### 2023年度実績

高大連携協定校は4校で、各校との連携事業は以下の通りです。(明浄学院高等学校との連携事業は⑬に記載)

- ・近江兄弟社高等学校…学部・学科セミナー(模擬授業):7/6(木)1年
- ・光泉カトリック高等学校…職業別ガイダンス:7/14(金)1年、進路ガイダンス:10/20(金)1年
- ・彦根総合高等学校…職業別体験:6/8(木)1年、  
進路ガイダンス:6/17(土)2年、10/16(月)1年、12/6(水)2年

講師派遣:「介護福祉基礎」(50分×年5回、介護福祉領域2年生)の授業を本学の作業療法学科教員が担当

こうした高大連携事業の取り組みは、本学と協定校の関係性を深めるために重要なことであり、本学への理解がさらに深化するよう、高校生が取り組みやすい連携事業を今後も企画、実施していきます。また、連携校の増加も今後の目標です。

### ⑬藍野高校及び明浄学院高等学校からのグループ内進学強化（入試広報委員会）

KPI	2023年度計画
高大連携協定の締結、内部進学者の受け入れ	出張講義等の実施

#### 2023年度実績

2023年度に実施した明浄学院高等学校との連携事業は以下の通りです。

- ・大学見学会:5/26(金) 看護メディカルコースの生徒47名が来学し、模擬授業と施設見学を実施
- ・進路ガイダンス:3/1(金) 1・2年生対象(6名参加)

## (3) 藍野大学短期大学部

[中期的な計画の進捗・達成状況]

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### ①教育の効果に関すること

メディカル・ヘルスイノベーション研究所については、メンタルヘルス領域における公開講座、グリーンサポーター養成講座の実施には至らなかった。

あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーションについては、更なる利用者増加を目指し、周知活動や研修会を開催した。

自己点検評価については、第三期評価の観点を踏まえて作成した 2023 年度の自己点検・評価報告書を、ホームページ上に公開した。次年度の第三者評価受審に向け、定期的に会議を開催し、認証評価の観点に基づき点検を行った。

### ②教育課程と学生支援に関すること

公開講座及び地域連携活動について、2023 年度はコロナ禍前のような地域連携講座を開催することができた。

官学連携については、2025 年度移転先となる、阿倍野区との間で連携協定書の締結をした。

シラバスについては、教務委員会構成員を中心にチェックを行い、成績評価の方法をはじめ記載内容を確認した。また、授業時間外学修について見やすい表を作成し改善を図った。

初年度における休学率については、中期目標を達成しているが、全体的な退学率・休学率においては 2023 年度の目標は達成には至らなかった。昨今は原因が複合的であるため、学習指導方法や学内カウンセリング等を各事情に合わせて充実を図る。

国家試験合格率については、専攻科は目標を達成したが、第一看護学科、第二看護学科は目標に至らなかった。国家試験対策のより一層の強化を図る。

### ③教育資源に関すること

高大連携については、2023 年度は新たに大阪府立吹田高等学校と協定書を締結した。

明浄学院高等学校からの第二看護学科への進学者数については、「特別入試」を実施し、4 名の入学者が決定した。目標の 10 名を目指し、2025 年度入学試験においても明浄学院高等学校から第二看護学科への内部進学促進施策を強化し、より一層高大接続の強化を図る。

FD・SD 活動については、藍野大学主催の研修会にも参加し、研究倫理委員会と FD・SD 推進委員会が連携の上、目標に至る研修会を開催した。

将来構想については、大阪阿倍野キャンパスの新校舎の教員の研究室個室を含む詳細設計が完成した。

### [藍野大学短期大学部]

#### ①教育の効果に関すること

KPI	2023 年度計画
各講座の設立・運営 【メディカル・ヘルスイノベーション研究所運営委員会】	・メンタルヘルス領域における公開講座の開催 ・グリーンサポーター養成講座の開講 ・グリーンケアに特化したカウンセリングルームの設置企画 ・子育て・発達支援領域における学習教材の開発
月平均利用者数 【メディカル・ヘルスイノベーション研究所運営委員会】	・あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーションの月平均利用者数の増加
内部質保証システムによる PDCA サイクルの実行 【自己点検・評価委員会】	・自己点検・評価報告書の作成および第三者評価受審に向けた体制の構築 ・教員の教育活動を評価するためのシステムの点検と改善 ・学生の自発的な活動を評価するためのシステムの構築 ・教員の研究活動を点検・評価するための業績報告書の様式作成

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### 2023 年度実績

#### 【メディカル・ヘルスイノベーション研究所運営委員会】

メディカル・ヘルスイノベーション研究所のメンタルヘルス領域においては、加齢に伴う様々な問題に関する公開講座の開催やグリーフサポーター（傾聴ボランティア）養成講座を開講し、講座の実施に加えて、リーフレットの作成などによる啓発活動も行う予定としていたが、実施には至らなかった。また、グリーフケアに特化したカウンセリングルームの設置に関しては、2025 年 4 月の移転に向けて再考し、具体的な運営方針、設置場所等について検討を継続しているところである。

子育て・発達支援領域で設立した、あいの発達支援リハビリ訪問看護ステーションの 2021 年 4 月からの延訪問件数は、7,212 件である（2024 年 3 月 31 日現在）。さらなる利用者数の増加を目指し高槻市や茨木市のスクールソーシャルワーカーへの周知活動や医療・福祉に従事している方々を対象とした子育て研修会を開催した。また、本学や藍野大学の実習施設として学生の受け入れを継続し、学生の実習の場としての役割を果たしている。

#### 【自己点検・評価委員会】

第三期評価の観点を踏まえて作成した、2023 年度の自己点検・評価報告書を、ホームページ上に公開した。次年度の第三者評価受審に向け、自己点検委員会やその他の委員会を中心に定期的に会議を開催し、教育目標・目的、DP・CP・APなどを認証評価の観点に基づき点検を行った。また、新たに学修成果、アセスメントプランやディプロマルーブリックなどの作成を行なった。今回の点検で明らかになった課題を、今後改善に向け取り組みを進める予定である。

教員間の活動を相互に点検・評価するために、ピアレビューの実施と評価を実施した。評価表は評価者で視点が異なることがないように統一した評価表を用いた。講義後、評価表を講義の担当教員へ返却し、次回の講義の改善へ繋げていくよう、構築した内容を一連のシステムとして運用できた。

学生の自発的な活動を評価するための項目として、学生表彰規程の中に追加されていることより構築されていると言える。学生がボランティアやスポーツ大会に参加するなど、自発的な活動が見受けられるため、学生委員会と連携し評価対象に該当するか検討する。

教員の研究活動を点検・評価するための業績報告様式の改善はできておらず、従来そのまま活用しているため未達成である。再度、研究活動を点検・評価するために、新たな業績報告様式の改善が必要なのか、FD・SD 推進委員会と連携し、今後検討を重ねる。

#### ア. ゲートキーパー養成講座

日時	内容	参加学生数
2月19日	ゲートキーパー養成研修 ・基礎情報編（中級） ・シナリオロールプレイ 2	23名

#### イ. 認知症サポーター養成講座

日時	参加学生数
8月24日	8名

#### ウ. メンタルヘルス・マネジメント検定

	受験者			合格者	
	Ⅱ・Ⅲ両方	Ⅱ種のみ	Ⅲ種のみ	Ⅱ種	Ⅲ種
第二看護学科	—	—	12名	—	3名
専攻科	—	30名	27名	26名	27名

## 第二 事業の概要 ( 事業計画等の進捗達成状況 )

### ②教育課程と学生支援に関すること

KPI	2023 年度計画												
公開講座件数 【地域連携推進委員会】	・公開講座、セミナー等の開催 ・オンライン講座の開催												
連携強化地域 【地域連携推進委員会】	・茨木市、メディカル・ヘルスイノベーション研究所と連携した活動 ・大阪狭山市、富田林市、柏原市とのセミナー等の共催 ・オンラインによる「地域」にとらわれない貢献												
人間力向上に向けた研修の開催 【地域連携推進委員会】	・学生の地域貢献活動への参加 (地域連携推進委員会)												
シラバス作成マニュアル整備 【教務委員会】	・シラバスマニュアルの見直しと記載事項の統一												
退学者の減少 休学者の減少 【教務委員会】	休学者の減少 第一看護学科：3%未満 第二看護学科：6%未満 専攻科：0% 退学者の減少 第一看護学科：1.5%未満 第二看護学科：4%未満 専攻科：0%												
入学初年度における休退学率 【教務委員会】	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>退学率</th> <th>休学率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一看護学科</td> <td>1.5%未満</td> <td>3%未満</td> </tr> <tr> <td>第二看護学科</td> <td>6%未満</td> <td>3%未満</td> </tr> <tr> <td>専攻科</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table>		退学率	休学率	第一看護学科	1.5%未満	3%未満	第二看護学科	6%未満	3%未満	専攻科	0%	0%
	退学率	休学率											
第一看護学科	1.5%未満	3%未満											
第二看護学科	6%未満	3%未満											
専攻科	0%	0%											
国家試験合格率 【教務委員会】	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>第一看護学科</td> <td>87%以上</td> </tr> <tr> <td>第二看護学科</td> <td>90%以上</td> </tr> <tr> <td>専攻科</td> <td>100%</td> </tr> </tbody> </table>	第一看護学科	87%以上	第二看護学科	90%以上	専攻科	100%						
第一看護学科	87%以上												
第二看護学科	90%以上												
専攻科	100%												

2023 年度実績
<p>【地域連携推進委員会】</p> <p>(1) 茨木キャンパスでは藍野大学と共催で以下の公開講座を実施した。</p> <p>①第1回市民公開講座「慢性閉塞性肺疾患 (COPD) について理解しよう」 9月30日実施。講師として外部より元大阪医科薬科大学病院呼吸器内科の村尾仁先生を招聘し、びわこリハビリテーション専門大学理学療法学科千住秀明教授、藍野大学理学療法学科山科吉弘教授とともに講演を行った。参加者はおよそ40名であった。</p> <p>②第2回市民公開講座「心不全について理解しよう」 7月24日実施。講師として外部より大阪医科薬科大学循環器内科 星賀正明教授を招聘し、藍野大学臨床工学科稲盛修二教授、藍野大学理学療法学科寺田茂教授とともに講演を行った。参加者はおよそ50名であった。</p> <p>(2) 富田林キャンパスにおける活動</p> <p>①子育て支援講座「ベビーマッサージ」(大阪狭山市および柏原市)を7月に実施。母子8組が参加した。</p> <p>②認知症サポーター養成講座(富田林市)を8月に実施。富田林市民の方11名と本学学生および教員23名が参加した。</p> <p>③柏原市子育てイベント(来場者数約200名)へ学生ボランティア6名が参加した。</p> <p>④本学職員による大阪狭山市ファミリーサポート担当者に対する講演「子どものからだの基礎知識～安全・事故防止～」を10月に実施した。参加者は10名であった。</p> <p>⑤子育て支援講座「ベビーマッサージ」(柏原市)を本学学生とともに10月に実施した。参加者は10組であった。</p> <p>⑥富田林市人権・市民協働課より依頼があり、男女共同参画事業である「パパ向け子育て支援講座ベビーマッサージ」を開催し学生ボランティアとともに参加した。参加者は3組であった。</p> <p>⑦子育て支援講座「ベビーマッサージ」(大阪狭山市)を12月に実施した。参加者は9組であった。</p> <p>⑧子育て支援講座「まご育講座」を3月に開催した。参加者は2名であった。</p> <p>(3) 学生の地域貢献活動・ボランティア活動への参加</p> <p>①第一看護学科学生では被災地(東北大地震)の子供たちにクリスマスカードを届けるプロジェクト(<a href="https://www.facebook.com/XmasCardsFromFriendsAroundTheWorld">https://www.facebook.com/XmasCardsFromFriendsAroundTheWorld</a>)への参加。一年生および二年生の有志により、30枚程度のクリスマスカードを贈ることができた。また、第二看護学科では、10名程度の学生・教職員が「ツタエテガミプロジェクト」に賛同し被災地(東北大地震)にクリスマスカードを送った。</p> <p>②昨年に引き続き富田林キャンパスにおいて、「アイシティ eco プロジェクト」(使い捨てコンタクトレンズ空き容器のリサイクル <a href="https://www.eyecity.jp/eco/">https://www.eyecity.jp/eco/</a>)に学生および教職員が参加し、8,450個(8.45kg)の容器を回収し感謝状をいただいた。また、今年もスペシャルオリンピックスのボーリング競技会にボランティアとして6名の学生が参加し感謝状をいただいた。</p> <p>9月には柏原市が開催している子育て支援イベントに2年生6名がボランティアとして参加した。また、実習施設でもある「デイサービス狭山市」から花見イベントの応援要請があり、ボランティアとして7名の学生が参加した。</p> <p>【教務委員会】 2024年度シラバス作成のために、シラバス作成の手引きの改正を行った。特に、今年度まで、記載内容の不足が多く</p>

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

みられた定期試験やレポート等の成績、答案の開示の方法についての修正を行うように努めた。各担当教員から提出されたシラバスについては、学科内の各領域で協議し統一を図り、保健師助産師看護師国家試験出題基準に照らして授業内容に不足はないか検討した。

2023年度、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、及び学修成果について、各学科で検討した後、教務委員会で協議し加筆修正を行った。そのため、修正したものを学生に教育支援システムにて周知し、学生便覧の変更も行った。

アセスメントプランについては、縦軸である評価レベルの見直し、及び、横軸である評価時期の見直しを行い、学位プログラムレベルの在学中にディプロマルーブリックを追加した。又、ディプロマ・ルーブリックについては、アセスメントプランの各時点で上手くリンクできるような運用についての検討を行う。

学修成果の策定については、学生へのアンケートをもとに2024年度に完成を目指す。

リメディアル教育について、第一看護学科は、入学予定者全員に事前課題を提示し、入学直後、試験により、基礎学力の可視化を行った上で、入学後半年間を中心にリメディアル教育を行った。第二看護学科は、国語、生物を中心に、7月～9月まで短期集中講座を実施した。昨年度よりの改善点として、オンラインから対面クラスへの変更、及び、国語について、分割クラスでの集中した取り組みとした。専攻科は、入学者全員に小論文課題を提供し、リメディアル教育で論文指導を継続することで表現力の強化を図っていく。

GPA分布については、バラツキがみられているが、対策を取るまでには至っていないので、早急に原因を明らかにし対策を講じていく。

### 【学生委員会】

学生相談について、臨床心理士による相談件数においては総数48件（茨木キャンパス8件、富田林キャンパス40件）であった。相談内容については学業や性格、対人関係などが主で相談内容の約60%を占めていた。これらの結果を教員で共有し、学業やキャンパスライフに支障がでないように、茨木キャンパスでは、学科教員に公認心理士の資格を有した教員を活用し、通常授業時週1回の臨床心理士の学生相談も併せて対応していく予定である。富田林キャンパスでは、母性看護学教員が主となり、からだの学生相談を開設している。女性特有の相談を受けており、今年度は12件の相談があった。それらの活用と、通常授業時は週2回の学生相談室の開設を継続し学生相談対応にあたっていく。また、2022年度に発足した学生相談部会では茨木・富田林両キャンパスの相談内容等を教員間で共有し学生対応の参考にしていく。障害学生修学支援部会においては、毎年3～4件程度の合理的配慮の申請が出ているので、障害学生に対し公正な教育を保障するため運営し、学生委員会で審議、検討していく。

「卒業時アンケート」「就職先アンケート」による学生満足度調査については、webアンケートと紙面によるアンケートを実施している。「卒業時アンケート」の回答率は100%近くであるが、「就職先アンケート」の回答率は昨年度より微増はしているが低値である。これらの結果は学習成果や就職指導、キャンパス環境の改善などに役立てるので、周知や回答方法を見直していく。「学生生活実態調査」については茨木・富田林両キャンパスで回収率に差があるので、改善できるよう周知方法を見直していく。

### エ. 休学率および退学率

	休学者	退学率（除籍含む）
第一看護学科	4.5%	2.4%
第二看護学科	5.8%	7.6%
専攻科	2.5%	5.0%

### オ. 初年度における休学率

	初年度における休学率
第一看護学科	1.7%
第二看護学科	2.6%
専攻科	2.5%

### カ. 2023年度 看護師国家試験の結果

	新卒			既卒		
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率
第一看護学科	115名	84名	73.0%	22名	8名	36.4%
第二看護学科	92名	58名	63.0%	8名	4名	50.0%

### キ. 2023年度 保健師国家試験の結果

専攻科	新卒		
	受験者	合格者	合格率
	38名	38名	100%

## 第二 事業の概要 ( 事業計画等の進捗達成状況 )

### Ⅲ. 教育資源に関すること

KPI	2023 年度計画
高大連携協定校の数 (累積) 【入学試験委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藍野高等学校からの内部進学強化</li> <li>・高大連携協定校のさらなる拡大と連携授業等の実施</li> <li>・協定校と緊密な連携を図り、高校生が短期大学部での学びに対する理解を深め、自発的に将来の進路について考えることができるプログラムの推進</li> </ul>
明浄学院高等学校から第二看護学科への進学者数 【入学試験委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・明浄学院高等学校対象の特別入試の実施</li> </ul>
研究活動の向上 【研究倫理委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究倫理教育、コンプライアンス教育の実施</li> <li>・科学研究費助成事業への応募書類作成や研究テーマの選定に関する研修の開催</li> </ul>
年間の FD 研修開催件数 【FD・SD 推進委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育技法等に関する発表会の開催</li> <li>・教員相互の授業参観の実施</li> <li>・研究倫理委員会と連携した研究倫理教育、コンプライアンス教育の実施</li> <li>・授業評価アンケートの提出率を向上</li> <li>・ベストレクチャー賞の設立と運営</li> <li>・学内教員による研究発表会の開催</li> </ul>
短期大学部の移転 【将来構想検討委員会】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2025 年の移転に向けたソフト面の検討</li> </ul>

2023 年度実績
<p>【入学試験委員会】</p> <p>本学と<b>高大連携協定書を締結している高等学校は 8 校 (藍野高等学校、明浄学院高等学校、樟蔭高等学校、羽衣学園高等学校、大阪緑涼高等学校、大阪府立東淀川高等学校、奈良文化高等学校、大阪府立吹田高等学校)</b>である。高大連携については、新型コロナウイルス感染症が収束に向かうなか、拡大を図るため精力的に活動を行った。<b>2023 年度は新たに大阪府立吹田高等学校と協定書を締結</b>した。また、高校内での進路ガイダンスや講座、学校見学会等の実施も改善されたことで、高校生がより身近な出来事から将来の進路として看護師を見つめてもらうための講座等を 2022 年度に引き続き積極的に取り組んだ。</p> <p>第二看護学科では 2022 年 4 月から本法人の設置校となった明浄学院高等学校に対して、事業計画で掲げていた新たな入試制度 (内部進学制度) の導入に向けて、両校教職員からなる担当者協議を重ね、問題の共有、情報の交換を行ってきた。その結果として、2024 年度入学試験より明浄学院高等学校を対象とした「特別入試」を実施し、4 名の入学者が決定した。2025 年度入学試験においても明浄学院高等学校普通科看護メディカルコースから第二看護学科、衛生看護科から第一看護学科への内部進学促進施策を強化し、より一層高大接続の強化を図る。</p> <p>【研究倫理委員会】</p> <p>研究倫理教育とコンプライアンス教育として、大学主催の研修会に参加した。参加できなかった教員に対しては、日本学術振興会の研究 E ラーニングコースの受講などを義務付けた。</p> <p>科学研究費助成事業へ 3 名の教員が応募した。(採択には至らなかったが) 次年度においても引き続き積極的な取り組みを促して行く。</p> <p>【FD・SD 推進委員会】</p> <p>教育力の向上を目的とし、定期的な FD・SD 研修会を 5 回開催した。本学独自の研修のみならず、藍野大学で開催された FD・SD 研修会へも積極的に参加した。大阪茨木キャンパスと、大阪富田林キャンパスで同時開催するために「Zoom」を使用した。</p> <p>教育技法向上のために、FD 研修を 1 回開催した。また、教員相互の授業参観を実施した。</p> <p>授業評価アンケートの提出率を向上させるために manaba から、紙でのアンケートへ変更することで回収率を向上させた。アンケート結果は、教員へフィードバックを行った。</p> <p>今後も、FD・SD 活動の推進と、倫理委委員会の協力のもと委員会の運営を行う。</p> <p>【将来構想検討委員会】</p> <p>2025 年 4 月から大阪阿倍野キャンパスにて授業が開始できるよう、短期大学部移転について教員・事務職員・設計事務所等と協議を重ね詳細設計が完成した。</p> <p>年度途中に入学定員の変更等があったが、再度協議を重ねた結果、最終詳細設計が完成した。</p> <p>講義室・実習室等の内部の設備・備品等に関しては、第一看護学科、第二看護学科及び専攻科に確認し、昨年度できた基本設計を基にレイアウトを業者に作成してもらい、その他必要な新規購入の設備・備品等を選別した。詳細設計の変更や予算を鑑み、再考が必要である。</p> <p>大阪茨木キャンパス、大阪富田林キャンパス (食堂・旧学生寮含む) にある設備・備品等で大阪阿倍野キャンパスにおいて使用出来る物等を選別し、引越・廃棄等を含めた見積もりを取ったが、引き続き他社にも見積り依頼する。</p> <p>その他、引越業者ではできない複合機・券売機等の移動や空調機の移動に伴うレンタル代替品、図書館移転等の見積もりを取った。引き続き詳細な予算の見直しと引越が滞りなく進むよう、具体的なスケジュールを教員含め協議する。</p>

#### ク. 2023 年度中に実施した高大連携講座等一覧

高校名	日程	内容
-----	----	----

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

藍野高等学校	6月24日	高等学校保護者懇談会に参加 〔対応者〕第一看護学科/学科長、学科長代理、入試広報グループ職員 〔内容〕学科紹介、入試ガイダンス、質疑応答 3年生約130名、他保護者
明浄学院高等学校	5月26日	会場型高校内ガイダンス 3年生 2名
	10月29日	明浄学院高等学校オープンスクール（中学生・保護者） 学科体験：母性看護学「赤ちゃんのお風呂（沐浴）体験してみましょ」
	11月25日	明浄学院高等学校オープンスクール（中学生・保護者） 学科体験：災害看護「あなたの知恵で命を救う！災害時の100均サバイバルテクニック」
	3月1日	高校内ガイダンス 1・2年生 34名
樟蔭高等学校	5月16日	講座「災害看護」 2・3年 看護系進学コース 31名（2年生14名、3年生17名）
	6月27日	講座「からだところをいたわるプレコンセプションケア～自分のからだをすることから始めよう～」 2・3年生 看護系進学コース 29名（2年生13名、3年生16名）
	7月7日	高校内ガイダンス 3年生2名 2年生2名
	10月31日	講座「老人体験」 2年生 看護系進学コース 13名
	2月27日	講座「精神看護学～ここは時を越えて～」 1年生 看護系進学コース 22名
大阪緑涼高等学校	5月1日	高校内ガイダンス 3年生 3名
	6月29日	高校内ガイダンス 1年生 5名
	10月6日	高校生ダイレクト資料配布 分野別 看護希望 19名
	10月27日	高校内ガイダンス模擬授業「手洗い」1年生 7名
	11月22日	高校内ガイダンス 1年生 9名
	11月29日	高校内ガイダンス 2年生 5名
大阪府立吹田高等学校	9月11日	高大連携に関する協定書 調印式
	11月21日	講座「看護師への道」 1・2年生（看護医療プログラム登録）17名
大阪府立東淀川高等学校	7月5日	高校生ダイレクト資料配布 分野別 看護希望 34名
奈良文化高等学校	10月25日	高校内ガイダンス 1年生看護・特進 5名
羽衣学園高等学校	—	実施無し

### ケ. 2023年度 オープンキャンパス参加者・資料請求数対比

入試状況		2023年	2022年	2021年	2020年	
第一看護学科	来場者数	延数	68	159	147	98
		実数	63	81	86	70
	資料請求者数	220	233	175	168	
第二看護学科	来場者数	延数	106	121	194	198
		実数	89	95	144	148
	資料請求者数	4,523	5,349	5,676	4,686	
専攻科	来場者数	延数	303	1,085	678	358
		実数	208	286	234	187
	資料請求者数	512	528	594	560	

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### コ. 2024 年度入学生 入学試験状況

入試状況			2024 年	2023 年	2022 年	2021 年	
第一看護 学科	志願 者数	延数合計	128	120	131	169	
		実数合計	128	120	130	155	
		実数 内訳	衛生看護	115	91	112	128
			養成校	13	29	18	27
	入学者数		125	118	124	140	
	入学定員充足率 (%)		125.0	118.0	124.0	140.0	
第二看護 学科	志願 者数	延数合計	57	97	141	146	
		実数合計	56	90	133	140	
		実数 内訳	高校生	53	84	113	125
			社会人	3	6	20	15
	入学者数		49	77	93	100	
	入学定員充足率 (%)		61.25	96.25	116.25	125.0	
専攻科	志願者数		231	330	374	279	
	入学者数		40	40	39	40	
	入学定員充足率 (%)		100.0	100.0	97.5	100.0	

### サ. 2023 年度 FD・SD 研修一覧

回		日程	内容	講師	参加人数
1	SD	4 月 18 日	学生からのクレーム対応を考える	藍野大学短期大学部 学長 足利 学	49 名
2	SD	6 月 6 日	【大学開催】 研究倫理講習（介入研究についての講演）	藍野大学 医療保健学部 理学療法学科 学科長 教授 寺田 茂 先生	61 名
3	SD	6 月 6 日	【大学開催】 コンプライアンスについて	藍野大学 副学長・中央研究施設施設長 栗原 秀剛 先生	69 名
臨時	SD	9 月 21 日	【大学共催】 しんどい学生をどう発見するか？	藍野大学短期大学部 学長 足利 学	38 名
4	FD	3 月 26 日	教授法や授業の中で工夫していること	藍野大学 医療保健学部 看護学科 講師 古澤 朗子 先生	35 名

#### (4) 藍野高等学校

[中期的な計画の進捗・達成状況]

##### ① 高大連携による重層的かつ一貫性のある教育システム

本校は藍野大学、藍野大学短期大学部のアドミッションポリシーを踏まえ、グループとして育成を目指す人材像を共有し、教育の連続性によって共通化される教育システムを構築すべく、2025 年度目標の結果検証に向けて藍野大学短期大学部との連携協定を結ぶ取り組みを行いました（2022 年度）。

##### ② 藍野大学・藍野大学短期大学部へのグループ内進学強化

藍野大学、藍野大学短期大学部他の内部進学を行うべく、高大連携協議会を定期開催し、内部進学に関する成績条件面など協定内容の調整を進め正式な内部進学協定の締結をしました。本校としては、藍野大学への内部進学を希望する生徒には、その進学条件に適合させるための進路指導を行い、高大

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

合計7年間での医療人材育成を行うシステムを強化していきます。

2023年度の内部進学者数は卒業生130名中、115名（藍野大学短期大学部第一看護学科109名、藍野大学医療保健学部看護学科5名・臨床工学科1名）となりました。

### ③学習到達目標の設定による生徒の意欲と自己学習能力の向上

メディカルサイエンスコースでは各教科の基本プランの充実を促し、学習到達目標の設定を数値化、各学年での目標を明確にすることにより、生徒の学力向上やスキルアップを図るべく教育指導を行っています。

### ④医療職の実情を体感し、能力・適性にあつた進路決定の支援

メディカルサイエンスコースでは、グループ校と連携した授業を展開し、看護系だけではない医療職の知識を高めることで、自身に適した医療職を探求することを目標としています。

### ⑤衛生看護科の特徴を活かした生徒募集

入学した生徒のカリキュラム面での満足度を高めるとともに、藍野大学短期大学部への内部進学をはじめ、藍野大学等グループ内設置校への進学、その他進学面の指導において実績を上げ、さらに、高大連携の熟成を高め、新たなICT教育環境を整備活用したきめ細かい指導など本校独自の取り組みをPRすることで志願者増につなげることを目指しています。2025年度目標の志願者数170名以上に対して、2023年度の志願者数は、141名となりました。新たなICT教育環境を整備活用したきめ細かい指導については、現在、導入ツールSlack等のマッチングなど考察を行っています。

### ⑥校舎の老朽化への対応

現在の校舎は開学前からの残存建築物の流用であることから、老朽化への対応と共に耐震化対策が喫緊の課題です。2024年4月より新校舎への移転方針が機関決定されており、法人事務局と協力し具体的な移転計画に向け新校舎及びそれに伴う機器備品等の具体的準備を行っています。

## [事業計画の進捗・達成状況]

### ①教育活動

藍野高等学校（以下「本校」という。）で学ぶ生徒の「興味・関心」、「能力・適性」等の多様化が顕著となる中で、将来を見据えた生徒一人ひとりの可能性を引き伸ばす教育を実践し、一般教科の基礎・基本的学力の定着と、看護教科の専門知識（衛生看護コース）、並びに各医療専門職に関連した知識（メディカルサイエンスコース）の習得を目標にした取り組みを行いました。

本校では、基礎学力の高い生徒（入学時の成績）の割合が年々多くなってきている一方で、下位層の生徒も例年一定数入学してきている現状があります。本校が継続的に取り組む大きな課題として、上位層の学力をより一層伸ばすとともに、下位層の基礎学力を引き上げていく必要があります。そのため、衛生看護コースにおいては、単に「准看護師試験合格」を目指すのではなく、卒業後、大半の生徒が進学する藍野大学短期大学部での「看護師国家試験合格」に繋げるため、一般教科での基礎学力の更なる向上と、看護教科においては高等学校卒業時における「看護師国家試験の必須問題」クリアを目標に下記のような取り組みを行いました。またメディカルサイエンスコースにおいては、「総合的な探究の時間」を活用して藍野大学との高大連携による論理的な思考を育てる授業を展開し、生徒個々の能力や職業適性を磨き、将来の職業選択のための幅を広げることができるような取り組みを行いました。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### 一般教科の主な取り組み

- ・シラバスの作成（学習指導要領に即しているか）
- ・教科研修会への積極的な参加
- ・基礎力・実力診断テスト（英・数・国）の実施による生徒の学力把握と補習を含む学習指導の強化
- ・基礎力・実力診断テストによる学力グループの編成と検証
- ・定期考査の補習充実
- ・長期休暇中の課題・補講の実施
- ・学力底上げのための教材準備
- ・学習意欲の高い生徒への支援教材の作成
- ・朝学習の実施（生徒の主体的な学習の取り組み）

### 看護教科の主な取り組み

- ・シラバスの作成（学習指導要領に即しているか）
- ・教科研修会への積極的な参加
- ・准看護師試験模擬試験の実施（1年生から計画的に実施）
- ・定期考査の補習充実
- ・長期休暇中の准看護師試験対策に関する補講（習熟度別）の実施
- ・看護レポートの書き方等についての表現力養成講座の実施

教育の内容・水準を担保するため、高等学校学習指導要領に沿った内容の授業が展開することはもちろん、より生徒の満足度を高めるための努力を行いました。具体的には、基礎力・実力診断テスト、定期考査の結果を受け、速やかに個別面談を行うとともに成績に応じた適切な教材を作成し、補講を行なうことで基礎学力を固めるとともに学習意欲の向上を図りました。また、教員の資質向上を図るため、教科研修会等に担当教員が積極的に参加し、その成果を教科指導に生かす取り組みなどを行いました。

一方、本校の教育方針である「高い学力と豊かな人間性を備え、将来の社会に貢献できる自立した医療人を育成する」の一環として、基本的な生活習慣とマナーの確立、自主性・主体性の伸長を目指し、挨拶の習慣化や家庭との連携を密にすることに努め、委員会活動・学校行事を通し指導を行いました。

本校の組織運営体制の改善・充実を図るために、学校評価（自己評価・学校関係者評価）を前年度に引き続き実施しました。引き続き PDCA サイクルの意識を高め、改善を進める体制を継続しています。看護専門科目については、以下の「教科目標」を定め、昨年度同様に継続して実施しました。

### 教科目標

看護医療に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、看護の本質と社会的な意義を理解させるとともに、国民の健康の保持増進に寄与する能力と態度を育てることを目標としています。

#### ア．基礎看護

看護の意義と保健・医療・福祉における看護の役割を理解させるとともに、日常生活の援助及び診療における看護に関する基礎的な知識と技術を習得させ、看護を適切に行う能力と態度を育てる。

#### イ．人体の構造と機能

看護を実践するために必要な人体に関する知識を習得させ、人体と生活及び環境との関係について理解させる。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### ウ．疾病の成り立ちと回復の促進

看護を実践するために必要な疾病、治療及び薬物に関する知識を習得させ、これらと疾病からの回復を促進させるための看護との関連について理解させる。

### エ．健康支援と社会保障制度

看護を実践するために必要な精神保健、生活者の健康及び社会保障制度に関する知識を習得させ、社会生活における医療と保健及び福祉との関係について理解させる。

### オ．成人看護

成人の心身、生活、保健及び疾病について理解させ、成人の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### カ．老年看護

高齢者の加齢、生活、保健及び疾病について理解させ、高齢者の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### キ．精神看護

精神看護の意義と役割及び精神に障害のある人の看護の実際を理解させ、精神看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### ク．在宅看護

在宅看護の意義と役割及び看護の実際を理解させ、在宅での看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### ケ．母性看護

母性の特質、生活、保健及び疾病について理解させ、母性の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行うために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### コ．小児看護

小児の特質、生活、保健及び疾病について理解させ、小児の看護に関する知識と技術を習得させるとともに、その看護を行なうために必要な基礎的な能力と態度を育てる。

### サ．看護臨地実習

看護に関する各科目において習得した知識と技術を臨床の場で活用し実践する経験を通して、看護観をはぐくみ、問題解決の能力を養うとともに、チーム医療に携わる様々な職種の役割及び保健医療福祉との連携・協働について理解し、臨床看護を行うために必要な能力と態度を育てる。

### シ．看護情報活用

社会における情報化の進展と情報の意義や役割を理解させるとともに、情報の活用に関する知識と技術を習得させ、看護の分野で情報及び情報手段を主体的に活用する能力と態度を育てる。

## ②生徒指導・生徒支援体制

### ア．カウンセリング機能（相談体制）の充実と生活指導の強化

本校では、生徒の修学や日常的な場面の悩みなどに対して、適切かつ迅速に対応し、生徒が安心して学習に取り組むことができるように、継続した取り組みとして「心の専門家」である臨床心理士をスクールカウンセラーとして配置し、生徒指導担当等の教員と協力のうえ、学校内におけるカウンセリング機能（相談体制）の充実を図っています。

また、初期対応を重要視し、担任、生徒指導担当及び看護教員並びにスクールカウンセラーの定期的なミーティングにより生徒個々の特性を共有するなど、早期からの相談体制の継続した取り組みを

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

行いました。

併せて、将来の医療人として、挨拶、身だしなみ、基本的な社会規範や生活習慣を身に付けさせるための生活指導の強化に努めました。

### 2023年度 スクールカウンセラー相談件数（前年度対比）

実施時期	延べ件数		増減
	2023年度	2022年度	
4月～6月	15	21	△6
7月～9月	18	6	12
10月～12月	35	39	△4
1月～3月	15	21	△6
合計	83	87	△4

### イ. 経済的支援

「学業成績優秀学生生徒給付奨学金制度」により、2年次以上の学業成績が優秀であり勉学意欲の旺盛な生徒5名（2年生2名、3年生3名）が本奨学金の給付を受けました。

#### ① 准看護師試験

准看護師試験直前の時期については、習熟度別の個別指導に力を入れるとともに、関西広域連合以外の他府県の准看護師試験についても積極的に受験するよう指導しました。結果として、関西広域連合等実施の准看護師試験では127名中126名が合格、1名が不合格となりました。

### 2023年度卒業生 准看護師試験の結果

学 科	受験者数（人）	合格者数（人）	合格率（%）
衛生看護科	127	126	99

#### ② 進学・就職状況

### 2023年度 衛生看護科進学・就職状況

卒業生数（人）	進学者数（人）	就職者数（人）	未定（人）
130（90）	128（90）	1（0）	1（0）

※カッコ内の数値は前年度

#### ③ 自己評価の実施

学校教育法及び同施行規則の学校評価に関する規定に基づき、2022年度の教育活動その他の学校運営状況について設定した目標や具体計画の達成状況、取り組みの適切さ等の自己評価を行ないました。その結果を、保護者等による学校関係者で教育活動の観察や意見交換等を通じて評価を行ない、学校の状況に関する共通理解と連携体制を築くことができました。

また、その結果を対外的にも情報公開し、学校としての説明責任を果たすよう努めました。

#### ④ 生徒募集活動

2023年度は、2024年度の明浄学院高校との統合に向けて、オープンスクール等の行事を明浄学院

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

高校校舎において合同で実施しました。衛生看護科卒業後、藍野大学短期大学部第一看護学科（准看護師から看護師を養成する2年制コース）への進学により中学校卒業後5年間での看護師養成が可能であることを強くアピールできたことは、生徒募集面で好影響をもたらしました。

2023年度についても施策として、前年同様、本校の特徴や様子を伝えるための動画制作に注力し、YouTube上への掲載と、中学生や保護者が利用している各種SNSの掲示板等を積極的に活用するPR戦略を展開しました。本校教員による授業動画、学内実習の様子、オープンスクールに参加できなかった中学生のための当日の内容紹介、等々をコンテンツとした専用チャンネルを立ち上げ、広報ツールとして特筆すべき効果をあげました。

さらに、集客力の高い外部の合同説明会等の外部イベント（大阪私立学校展、西淀川区合同高校説明会、東淀川区PTA協議会説明会・五ツ木書房主催進学相談会・和歌山県中学校長会等）に積極的に参加するとともに、従来型の中学校訪問や学習塾へのアプローチも可能な限り実施しました。

このような取り組みが奏功し、最終的には出願者260名（昨年度140名）、入学者数157名（昨年度120名）の結果が得られました。

### (5) 明浄学院高等学校

[中期的な計画の進捗・達成状況]

#### ① 高大連携による重層的かつ一貫性のある教育システム

本校は藍野大学、藍野大学短期大学部の、グループとして、普通科部門において、幅広く育成すべき目指す人材像を大学、短期大学とも共有し、教育の系統性によって共通化される教育システムを構築すべく、2025年度目標の結果検証に向けて2023年度は藍野大学短期大学部との連携協定に基づいて、4名の進学に取り組みました。

#### ② 藍野大学・藍野大学短期大学部へのグループ内進学強化

藍野大学、藍野大学短期大学部他への内部進学を行うべく、高大連携協議を定期的に開催し、内部進学に関する成績条件面などを協議、正式な内部進学協定の締結を行うための調整を進めました。本校としては、藍野大学をはじめグループ校への内部進学を希望する生徒には、その進学条件に適合させるための進路指導を行い、高大間の連携により本学の教育理念に基づいた医療人材育成を行うシステムの体制を強化しました。

2025年度目標の内部進学者数30名（看護メディカルコース）以上に向けて、準備を進めています。

#### ③ 学習到達目標の設定による生徒の意欲と自己学習能力の向上

看護メディカルコースでは各教科の基本プランの充実を促し、学習到達目標の設定を数値化、各学年での目標を明確にすることにより、生徒の学力向上やスキルアップを図るべく教育指導を行いました。

#### ④ 医療職の実情を体感し、能力・適性にあった進路決定の支援

看護メディカルコースでは、グループ校と連携した授業を展開し、看護系だけではない幅広い医療職の知識を高めることで、自身に適した医療職を探求することを目標としています。大学、短期大学入学試験の要件として、キャリアパスポートを導入し、学習成果の可視化ができる環境を整えることを2025年度目標としています。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### ⑤ 普通科の特徴を活かした看護メディカルコースにおける生徒募集

入学した生徒のカリキュラム面での満足度を高めるとともに、藍野大学短期大学部への内部進学をはじめ、藍野大学等グループ内設置校への進学、その他進学面の指導において実績を上げ、さらに、高大連携の熟成を高め、新たな ICT 教育環境を整備活用したきめ細かい指導など本校独自の取り組みを PR することで、志願者増につなげることを目指しています。2025 年度目標の志願者数 300 名以上に対して、2023 年度の志願者数は、総数 324（男子 41）名となり目標数を上回りました。また看護メディカルコースにおいて募集定員 36 名に対して 37 名の志願者がありました。（転科希望 149 名）今後、併願の増加を含めて、それぞれのコースにおける志願者拡大を目指します。

### ⑥ 新校舎での新たな学習環境の整備

2024 年完成新校舎に合わせて、総合キャリアコースにおけるそれぞれの専攻授業対応、看護メディカルコースにおいては同じく整備された学習環境の設定など、充実した教育環境整備を完成させるべく、藍野高校とも協力しきめ細かい計画作成など準備を行いました。

## [事業計画の進捗・達成状況]

### ①教育活動

明浄学院高等学校（以下「本校」という。）で学ぶ生徒の「興味・関心」、「能力・適性」等の多様化が顕著となる中で、将来を見据えた生徒一人ひとりの可能性を引き伸ばす教育を実践し、一般教科の基礎・基本的学力の定着と、総合キャリアコースの 5 専攻、看護メディカルコースでの動機付けおよび教科の専門知識の習得を目標にした取り組みを行いました。

#### 一般教科の主な取り組み

- ・シラバスの作成（学習指導要領に即しているか）
- ・教科研修会への積極的な参加
- ・基礎力・実力診断テスト（英・数・国）の実施による生徒の学力把握と補習を含む学習指導の強化
- ・基礎力・実力診断テストによる学力グループの編成と検証
- ・定期考査の補習充実
- ・長期休暇中の課題・補講の実施
- ・学力底上げのための教材準備
- ・学習意欲の高い生徒への支援教材の作成
- ・朝学習の実施（生徒の主体的な学習の取り組み）

教育の内容・水準を担保するため、高等学校学習指導要領に沿った内容の授業が展開することはもちろん、より生徒の満足度を高めるための努力を行いました。具体的には、基礎力・実力診断テスト、定期考査の結果を受け、速やかに個別面談を行うとともに成績に応じた適切な教材を作成し、補講を行なうことで基礎学力を固めるとともに学習意欲の向上を図りました。また、教員の資質向上を図るため、教科研修会等に担当教員が積極的に参加し、その成果を教科指導に生かす取り組みなどを行いました。

一方、本校の教育方針である「明く 清く 直く」の精神の下、自立した女性」の育成を目指した。また、その一環として、基本的な生活習慣とマナーの確立、自主性・主体性の伸長を目指し、挨拶の習慣化や家庭との連携を密にすることに努め、委員会活動・学校行事を通し指導を行いました。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

本校の組織運営体制の改善・充実を図るために、学校評価（自己評価・学校関係者評価）を前年度に引き続き実施しました。引き続き PDCA サイクルの意識を高め、改善を進める体制を継続しています。各教科科目については、昨年度同様に目標を設定して継続して取り組みを実施しました。

### ②生徒指導・生徒支援体制

#### ア．カウンセリング機能（相談体制）の充実と生活指導の強化

本校では、生徒の修学や日常的な場面の悩みなどに対して、適切かつ迅速に対応し、生徒が安心して学習に取り組むことができるように、継続した取り組みとして「心の専門家」である臨床心理士をスクールカウンセラーとして配置し、生徒指導担当等の教員と協力のうえ、学校内におけるカウンセリング機能（相談体制）の充実を図りました。

また、初期対応を重要視し、担任、生徒指導担当及び看護教員並びにスクールカウンセラーの定期的なミーティングにより生徒個々の特性を共有するなど、早期からの相談体制の継続した取り組みを行いました。

併せて、将来の医療人として、挨拶、身だしなみ、基本的な社会規範や生活習慣を身に付けさせるための生活指導の強化に努めました。

#### イ．経済的支援

「学業成績優秀学生生徒給付奨学金制度」により、2 年次以上の学業成績が優秀であり勉学意欲の旺盛な生徒 5 名（2 年生 2 名、3 年生 3 名）が本奨学金の給付を受けました。

### ③進学・就職状況

#### 2023 年度 進学・就職状況

卒業生数（人）	進学者数（人）	就職者数（人）	その他（人）
69（66）	66（55）	1（4）	2（7）

※カッコ内の数値は前年度

### ④自己評価の実施

学校教育法及び同施行規則の学校評価に関する規定に基づき、2023 年度の教育活動その他の学校運営状況について設定した目標や具体計画の達成状況、取り組みの適切さ等の自己評価を行ないました。その結果を、保護者等による学校関係者で教育活動の観察や意見交換等を通じて評価を行ない、学校の状況に関する共通理解と連携体制を築くことができました。

また、その結果を対外的にも情報公開し、学校としての説明責任を果たすよう努めました。

### ⑤生徒募集活動

2023 年度は、盛んなクラブ活動、看護メディカルコース、新校舎完成、共学化など中心に、幅広く人材募集を行い 383 名の多数の入学者を確保しました。

具体的な募集活動は、継続的な募集施策として本校の特徴や様子を伝えるための動画制作や Instagram などの SNS を積極的に活用し注力し PR 戦略を展開しました。

また、オープンスクールの回数は前年度より増やし、内容は各回趣向を変えるなど中学生がより親しみを持って参加しやすいように工夫を凝らしました。中学校及び学習塾訪問活動も広報担当が戦略的かつ組織的に実施し、クラブ関係の募集についても昨年同様一定の成果は上げることはできました。

こういった取り組みで、大きな変化を遂げた本校では注目校の一つとなり、600 名に及ぶ志願者を

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

受けました。

### (6) 管理運営の取り組み

[中期的な計画の進捗・達成状況]

#### ①教職員の採用・育成

教育投資に見合う面倒見の良い学校づくりを進めるためには、教員及び事務職員が本法人に定着し、教育サービスや学修支援サービス等を安定的かつ継続的に供給する必要があります。そのため、教員及び事務職員の平均勤続年数を KPI として設定し、目標値を達成するために、労働条件の改善や働き方改革を進めることとしました。2023 年度における結果と具体的な取り組みは、以下のとおりです。

KPI	2023 年度計画
教員の平均勤続年数	8 年 3 ヶ月
事務職員の平均勤続年数	8 年 5 ヶ月
人事評価の総合評価が B 以上の者の割合	45%以上
年次有給休暇取得率	50%以上
2023 年度実績	
2023 年度の達成状況としては、 <b>教員の平均勤続年数は 7 年 9 ヶ月、事務職員の平均勤続年数は 9 年 9 ヶ月</b> となり、2022 年度実績と比較し、教員の平均勤続年数は上昇しましたが、事務職員の勤続年数は減少しました。また、本法人の経営基盤を安定させ、充実した教育サービスを学生・生徒に提供するためには、事務職員の資質と能力の向上が不可欠です。そのため、 <b>事務職員における人事評価の総合評価が B 以上の者の割合</b> を KPI として設定していましたが、2023 年度実績では、 <b>58.3%</b> となり、2022 年度実績と比較し、上昇しました。また、 <b>年次有給休暇取得率</b> の 2023 年度実績は、 <b>50.1%</b> となりました。	

#### ②安定した財務基盤と積極的な投資

KPI	2023 年度計画
経常収支差額比率	0.88%
教育研究経費比率	34.37%

KPI	2023 年度実績
ファシリティ維持・更新計画の策定	大阪阿倍野キャンパスプロジェクトの推進
卒業生・在学生保護者との連携強化策の策定	Slack ゲストアカウント及び Google Workspace アカウントの物理的な供給準備
2023 年度実績	
大阪阿倍野キャンパスプロジェクトについては予定どおり進捗しており、明浄学院高等学校新校舎が 2024 年 1 月末日に竣工し、2 月 20 日の竣工祭（神事）を経て、3 月 9 日には内外の関係者を招いて大々的に竣工式を行った。 Slack ゲストアカウントについては、明浄学院高等学校において生徒だけではなく、保護者との連絡手段としてアカウントの配布を行った。全国的にも通信制高校以外での Slack の利用は珍しく、保護者が参加した Slack の運用は非常に稀なモデルケースとして、サービスを提供する Salesforce 社からも注目されており、2024 年度から教職員、保護者、生徒間のコミュニケーションツールとして本格運用を開始する予定である。	

[事業計画の進捗・達成状況]

2023 年度に取り組んだ本法人の管理運営の改善及び事業は、次のとおりです。

#### ①明浄学院高等学校との協創、4 キャンパス体制の確立

本法人は、学校法人明浄学院が運営する明浄学院高等学校を支援し、相互に一層の教育研究活動を発展させることを目的に、2022 年 4 月より明浄学院高等学校は学校法人藍野大学を運営母体として設置者を変更することで合意し、2020 年 8 月 18 日に支援契約を締結しました。建学の精神「明く・

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

「浄く・直く」を掲げる学校法人明浄学院の100年の歴史と伝統を受け継ぐ教育とブランド力を活かし、大阪阿倍野キャンパスで再建を図ることを前提に、人的支援・物的支援・資金的支援を継続的に行ってまいりました。

2023年度も2022年度に引き続き、教育活動や部活動等の充実と施設・設備への投資を通じて、入学定員充足率の回復と明浄学院高等学校単体として収支が均衡する状態を目指し後方支援しました。

そして、2024年1月末日、大阪阿倍野キャンパスプロジェクトに基づいて、明浄学院高等学校と藍野高等学校の統合のシンボルとなる4階建の新校舎の引き渡しを無事に受けました

2025年4月には、藍野大学短期大学部の第一看護学科、専攻科及び第二看護学科を大阪阿倍野キャンパスの新校舎に移転すべく、未来を拓く新たな智の拠点としてこれまでにない教育研究活動を展開していく予定で準備を進めています。



### ②大阪府「都市緑化を活用した猛暑対策事業」への取り組みについて（THE AINO's SQUARE スクールバス停留所の猛暑対策）（法人事務局総務センター）

本法人は、「都市緑化を活用した猛暑対策事業」として、昨年度実施の摂津富田駅前スクールバス停留所に続き、THE AINO's SQUARE（AINOPIA 前）スクールバス停留所において、猛暑対策事業を実施しました。

本事業は、大阪府が実施する都市緑化を活用した猛暑対策事業の対象となっており、1,500万円を上限として大阪府から事業費が助成されるものである。この制度を活用し、スクールバス停留所上屋に微細ミストの設置および周辺に樹木を植栽する等、猛暑対策を行いました。



#### <事業の概要>

- ・実施場所：THE AINO's SQUARE（AINOPIA 前）スクールバス停留所
- ・環境改善設備等の種類：既設スクールバス停留所上屋に微細ミストの設置、緑陰を形成するよう周辺に樹木を植栽
- ・実施期間：2023年9月～10月（工事实施）

2024年7月～9月（暑熱環境改善の定量的な効果について調査・把握、大阪府への報告等予定）

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### ③広報戦略（法人事務局総務センター総務グループ）

#### ア．学校法人藍野大学の知名度向上

昨年度に引き続き、学校法人藍野大学の認知拡大を図るため、学校法人パンフレット及び学校法人紹介動画の制作、設置校最寄り駅への看板掲出等を行った。

紹介動画（WEB-CM）では、文字やイラストだけでは伝えきれない本法人設置校の雰囲気や実習風景、授業の様子等を動画内で表現できるよう、本法人が設置する全ての学校種の学生・生徒をモデルに起用した。完成した動画は学校法人藍野大学公式 YouTube での公開に加え、オープンキャンパス等のイベントが活発となる 7/24(月)より 2 週間、三宮オーエスビジョン、心齋橋 OPA ビジョン、JR 西日本うめだ HEP 前ビジョン、大阪駅 BIG デジタルサイネージでも放映し、多くの人の目に触れるようにした。



#### イ．地域連携

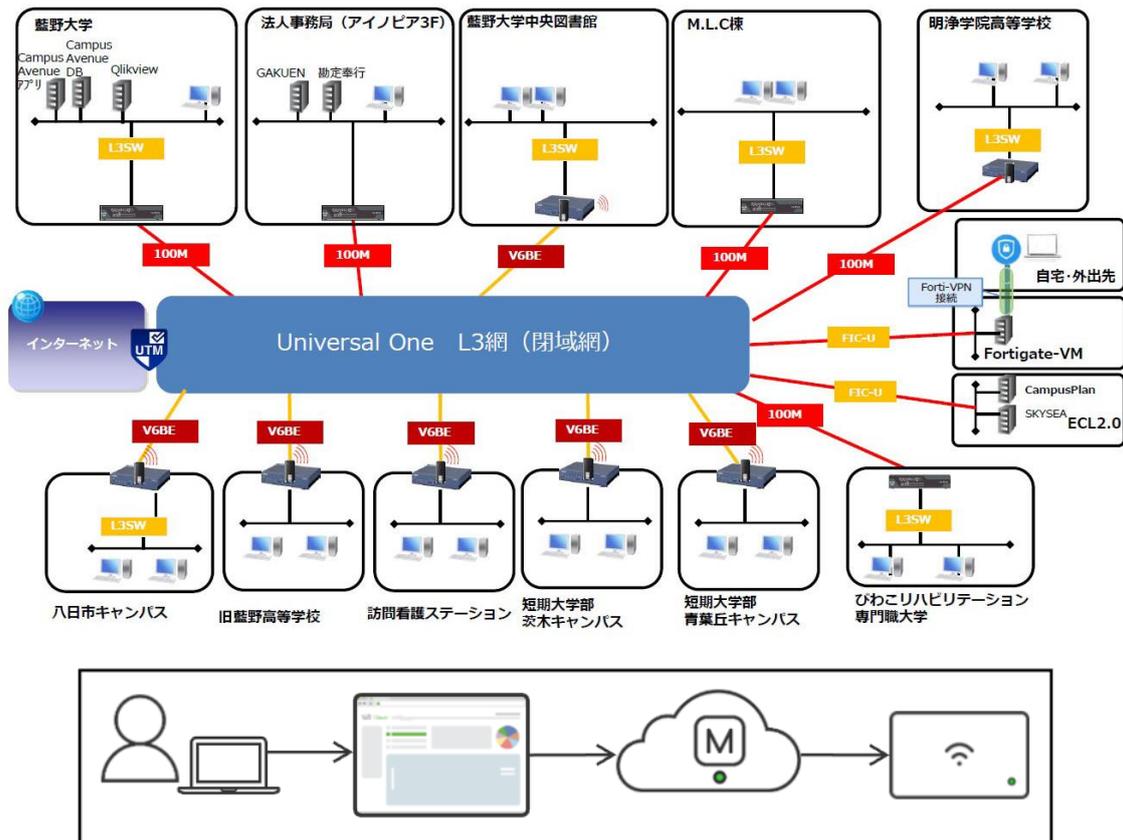
昨年度に引き続き、地域連携強化のため、全国中学校駅伝大会滋賀県実行委員会主催の「令和 5 年度全国中学校体育大会 第 31 回全国中学校駅伝大会」及び、びわこリハビリテーション専門職大学の教員が理事を務める全国空手道選手権大会の大会プログラムへの広告協賛、八日市商工会議所青年部事業主催の「East Rainbow 19th」への看板協賛を行い、2024 年 4 月にびわこリハビリ

## 第二 事業の概要 ( 事業計画等の進捗達成状況 )

テーション専門職大学に言語聴覚療法学科が新設されること、びわこ八日市キャンパスが誕生することを PR した。また、明浄学院高等学校吹奏楽部 第 51 回定期演奏会のパンフレットへ広告を掲載し、2024 年 4 月に大阪阿倍野キャンパスに新校舎が竣工することを宣伝した。

### ④情報インフラネットワークの発展的な利用 ( 法人事務局総務センター総務グループ )

ア. 本法人の基幹閉域網ネットワーク Arcstar Universal One に、新たに建設された明浄学院高等学校新校舎が帯域保証型専用回線で安心、安全、快適に接続できるようにした。又、新校舎全館で教員用ネットワーク、職員用ネットワーク、フリー用ネットワークへの Wi-Fi 接続が可能となっている。本法人の Wi-Fi システムは全設置校 CISCO Meraki クラウドソリューションで構築されており、Meraki に繋がるすべてのネットワークデバイスを、シンプルかつセキュアな単一プラットフォームで一元管理が可能となっている。これによりどこからでも接続状況の確認、接続登録・遮断、SSID の変更、サマリーレポートの出力などが可能になっている。インターネットに接続できる環境があればどこにでもアクセスポイントを移動することも可能である。



### ア. コミュニケーションツール Slack の発展的利用

2022 年度から全学導入された、学生、教職員を繋ぐコミュニケーションツール Slack の発展的利用として 2023 年には安否確認ツールの導入と、教職員の利用するサイボウズグループとの連携を可能にし、現在検証作業を行いながら安定運用を目指している。又、明浄学院高等学校では生徒だけではなく、保護者との連絡手段として、

オープンに、カジュアルに、コミュニケーションできる橋を架け、全学をつなぐ!

**Executive Producer**  
Slack  
Creating a virtual campus environment with Slack

学校法人藍野大学 副理事長  
山本 嘉人  
YAMAMOTO Yoshiko

- ▶ キャンパス内のデジタル化と学習環境の向上に役立てます。
- ▶ 学生・生徒の皆さんと教職員の対話による学習環境を拡大します。
- ▶ キャンパス内の情報を得るための検索と共有を一つの場所で行います。
- ▶ 産官学の連携における新しい活動とピアコラボレーションを創出します。
- ▶ プロジェクトやトピック、チーム別に専用チャンネルを構築することで、会議・仕事管理が、分かりやすくなります。
- ▶ 必要なメンバーと情報を一つの場所にまとめることで、アイデアの共有から意思決定を行い、仕事を円滑に進めることができます。
- ▶ 社内・社外 (他校) を問わず、安全な環境を確保します。
- ▶ パブリックとプライベートの設定で安全な環境を確保します。

Slackは、学生・生徒の皆さんと教職員、事務職員を有意義に結びつけるチャットベースのメッセージプラットフォームです。また、様々なグループウェアを共有できるデジタルキャンパスを可能にするツールです。こんなこと! あんなこと! 一緒に活用してみませんか。

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

Slack ゲストアカウントの配布を行った。全国的にも通信制高校以外での Slack の利用は珍しく、保護者が参加した Slack の運用は非常に稀なモデルケースとして、サービスを提供する Salesforce 社からも注目されており 2024 年度から教職員、保護者、生徒間のコミュニケーションツールとして本格運用開始する。

⑤本事業は環境省「令和 5 年度 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等 部門Ⅱ食品廃棄ゼロエリア推進方策導入モデル事業」に採択され実施しました。（法人事務局総務センター）

### 食品ロス廃棄ゼロエリアの継続的な実現に向けた取り組み

#### 事業名：学生の手で創出「学生食堂循環サイクル」

本事業は環境省「令和 5 年度 食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等 部門Ⅱ食品廃棄ゼロエリア推進方策導入モデル事業」に採択され実施しました。

- 食品廃棄物由来の液肥を用いて水耕栽培を行い、収穫野菜を学生食堂に提供することで食品リサイクルループを形成。水耕栽培は食堂内で行い、食品リサイクルループの見える化を図った。
- 学生ボランティアが各取組にも携わることで、学生が自身の手で循環サイクルを創出。
- 併せて食べ物の大切さや食品ロスへの関心を深めた。
- 取組内容は、藍野大学の講義にて紹介するとともに、他大学の学生や企業・団体にも共有した。

#### 事業の全体像

学生ボランティアが食品廃棄物由来の液肥を用いて水耕栽培を行い、収穫野菜を学生食堂に提供することで食品リサイクルループを形成



## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

### 取り組みの様子



種まきから収穫まで水耕栽培に携わる学生ボランティア



学内の食品廃棄の状況や取組を周知するポスター  
(学生主導で、毎月検討・作成)



収穫した野菜を食す学生



講義の一環として受講生が本事業を見学・体験

### 事業概要、実施体制、効果検証と事業成果、課題と展望

#### ■事業概要

##### ● 「学生食堂における循環サイクル」の創出

- ✓ 学生食堂に水耕栽培装置を導入し、学生・教職員への見える化を図った。
- ✓ 水耕栽培には、学生食堂から排出された食品廃棄物由来の液体肥料を活用した。できた野菜は学生食堂に還元した。
- ✓ 水耕栽培の運営や学内での啓発活動に協力する「学生ボランティア」を募り、事務局と連携して活動を展開した。

##### ● 学生食堂における食品廃棄ゼロエリアを継続（※令和4年度環境省モデル事業で創出）

- ✓ 学生食堂で生じる食品廃棄物・食べ残しの削減に取り組み、それでも発生する廃棄は生ごみ処理機で液体肥料にする。
- ✓ 食品廃棄物・食べ残しの重量を計測し、啓発ポスターを学生ボランティアが毎月作成した。

#### ■実施体制

## 第二 事業の概要（事業計画等の進捗達成状況）

- 学校法人藍野大学 法人事務局総務センター（事業計画・管理）、大学・短期大学部事務部門／高等学校事務センター（学内における意識涵養プログラムの実施）、株式会社藍野大学事業部（学生食堂での食品廃棄削減）
- 学生ボランティア（液体肥料の収集及び水耕栽培、啓発ポスター掲載内容の考案）

### ■効果検証と事業成果（含む定量評価）

#### ● 「学生食堂における循環サイクル」の実績

- ✓ 学生ボランティア（大学生 計 16 名）の協力を得て、循環サイクルを創出できた。
- ✓ 事業期間内に計 3 回の収穫を実施できた。サニーレタス 58 株、フリルレタス 12 株、水菜 28 株、ミニ白菜 6 株 等。
- ✓ 多様な方法で学生に向けた啓発を実施した。学生ボランティア作成ポスター、パネル、HP、大学講義との連携 等。

#### ● 学生食堂における食品廃棄ゼロエリアを継続した

- ✓ 「定食の食べ残し」は 1.7～4.4 g/食、「その他の食品廃棄物」は 0.7～1.9 g/食であった（事業期間中、月平均）。昨年度実現した低水準を概ね継続できた。特に「その他の食品廃棄物」の削減が一層進んだ。

#### ● 啓発活動を通じた学生の意識変化

（大学生のアンケート協力率が低く、高校生の結果を中心に考察）

- ✓ 学生食堂を利用する高校 1 年生にて、生ごみを捨てるときにもったいないと強く感じる割合が、11.1%から 45.5%に増加した（7 月 N=27、12 月 N=33。「とてもそう思う」の回答者）
- ✓ 学生ボランティアに参加した大学生は、参加前後で食品ロスをもったいないと感じる方が増加した（事業期間終了時に 16 名にアンケート。「とてももったいないと思う」 啓発前 6 名→啓発後 13 名）

### ■事業の課題・展望

- 令和 4、5 年度モデル事業を実施したキャンパスでは、活動の企画・運営主体を教職員から学生中心に意向を検討する。
- 令和 6 年度からは他キャンパスへ、ごはんの小盛の導入などの食品ロス削減施策を展開する。

# 第三 財務の概要

## 第三 財務の概要

### 1. 決算の概要

#### (1) 貸借対照表関係

##### ①貸借対照表の状況と経年比較

(単位：千円)

年 度	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
固定資産	14,068,843	15,611,784	14,153,156	19,649,974	21,037,509
流動資産	3,564,855	2,742,459	4,180,396	2,299,311	3,080,863
資産の部合計	17,633,698	18,354,243	18,333,552	21,949,286	24,118,372
固定負債	2,909,812	3,689,843	2,368,095	2,066,268	4,470,382
流動負債	3,018,400	3,066,915	4,160,748	3,279,655	3,266,466
負債の部合計	5,928,212	6,756,758	6,528,843	5,345,924	7,736,848
基本金	16,014,947	16,770,087	17,113,577	23,094,369	22,568,078
繰越収支差額	△4,309,462	△5,172,602	△5,308,867	△6,491,007	△6,186,554
純資産の部合計	11,705,485	11,597,485	11,804,709	16,603,362	16,381,523
負債及び純資産の部合計	17,633,698	18,354,243	18,333,552	21,949,286	24,118,372

※単位表示は、千円未満切り捨てのため、合計等が一致しない場合があります。

##### ②財務比率の経年比較

比率名	算式	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	全国平均
運用資産余裕比率	$\frac{\text{運用資産} - \text{外部負債}}{\text{経常支出}}$	0.04 年	-0.3 年	-0.1 年	0.1 年	-0.4 年	1.0 年
流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	118.1%	89.4%	100.5%	70.1%	94.3%	229.0%
総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	33.6%	36.8%	35.6%	24.4%	32.1%	16.1%
前受金保有率	$\frac{\text{現金預金}}{\text{前受金}}$	155.2%	108.8%	107.5%	81.7%	109.3%	348.0%
基本金比率	$\frac{\text{基本金}}{\text{基本金要組入額}}$	85.0%	86.6%	88.3%	91.7%	84.8%	97.0%
積立率	$\frac{\text{運用資産}}{\text{要積立額}}$	69.0%	53.2%	55.4%	44.0%	50.0%	77.2%

※財務比率につきましては、原則、小数点以下第 2 位を四捨五入して小数点第 1 位まで記入しています。

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 私学情報提供システムにおける「令和 4 年度財務比率表 (大学法人 (系統：保健系学部))」によります。

#### (2) 資金収支計算書関係

##### ①資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

収入の部	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
学生生徒等納付金収入	2,904,022	3,004,509	3,254,038	3,641,467	3,755,080
手数料収入	61,101	64,129	65,211	64,099	59,675
寄付金収入	6,063	9,088	58,575	431,280	13,171
補助金収入	425,060	572,091	606,327	841,387	1,149,259
資産売却収入	0	6,121	0	0	324,530
付随事業・収益事業収入	81,605	68,566	87,911	107,840	107,863
受取利息・配当金収入	52	1,682	1,989	2,253	2,455
雑収入	102,873	64,848	85,707	69,287	90,105
借入金等収入	348,000	1,000,000	0	0	2,731,000

## 第三 財務の概要

前受金収入	2,260,035	2,484,611	2,629,937	2,751,434	2,572,292
その他の収入	49,503	29,540	31,021	21,469	522,703
資金収入調整勘定	△2,265,155	△2,269,548	△2,505,695	△2,697,250	△3,009,314
前年度繰越支払資金	5,027,758	3,507,546	2,704,003	2,827,960	2,246,952
収入の部合計	9,000,919	8,543,187	7,019,029	8,061,230	10,565,778
支出の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費支出	1,887,411	2,141,229	2,264,257	2,533,095	2,539,394
教育研究経費支出	813,617	823,181	850,872	1,044,515	1,201,278
管理経費支出	524,364	463,976	386,591	452,160	509,369
借入金等利息支出	11,466	14,010	17,213	9,990	22,299
借入金等返済支出	183,325	144,996	218,646	1,220,106	219,866
施設関係支出	2,076,116	239,670	16,159	339,810	3,026,024
設備関係支出	508,744	261,283	60,851	112,838	202,945
資産運用支出	200,000	200,000	200,000	0	0
その他の支出	109,326	1,841,493	293,911	218,893	210,754
資金支出調整勘定	△820,998	△290,656	△117,434	△117,131	△177,555
翌年度繰越支払資金	3,507,546	2,704,003	2,827,960	2,246,952	2,811,401
支出の部合計	9,000,919	8,543,187	7,019,029	8,061,230	10,565,778

※単位表示は、千円未満切り捨てのため、合計等が一致しない場合があります。

### ②活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(単位：千円)

科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	3,565,087	3,783,233	4,157,771	5,115,712	4,896,029
教育活動資金支出計	3,225,393	3,428,387	3,501,721	4,029,771	4,250,042
差引	339,693	354,845	656,049	1,085,941	645,986
調整勘定等	359,085	△104,285	114,084	110,690	△157,896
教育活動資金収支差額	698,779	250,560	770,134	1,196,632	488,090
施設設備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	15,638	6,121	0	39,650	1,003,659
施設整備等活動資金支出計	2,784,860	700,954	227,010	452,648	3,228,970
差引	△2,769,222	△694,833	△277,010	△412,998	△2,225,311
調整勘定等	372,158	106,801	△156,897	△136,047	△274,633
施設設備等活動資金収支差額	△2,397,064	△588,031	△433,907	△549,046	△2,499,945
小計（教育活動資金収支差額+施設設備等活動資金収支差額）	△1,698,284	△337,471	336,226	647,585	△2,011,854
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	388,536	1,004,247	24,185	2,820	2,820,291
その他の活動資金支出計	210,463	1,470,385	236,651	1,231,120	243,988
差引	178,073	△466,138	△212,466	△1,228,300	2,576,303
調整勘定等	0	66	197	△292	0
その他の活動資金収支差額	178,073	△466,071	△212,269	△1,228,593	2,576,303
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	△1,520,211	△803,543	123,956	△581,007	564,448
前年度繰越支払資金	5,027,758	3,507,546	2,704,003	2,827,960	2,246,952
翌年度繰越支払資金	3,507,546	2,704,003	2,827,960	2,246,952	2,811,401

※単位表示は、千円未満切り捨てのため、合計等が一致しない場合があります。

# 第三 財務の概要

## ③財務比率の経年比較

### 教育活動資金収支差額比率

比率名	算式	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	全国平均
教育活動資金収支差額比率	$\frac{\text{教育活動資金収支差額}}{\text{教育活動資金収入計}}$	19.6%	6.6%	18.5%	23.4%	10.0%	9.1%

※財務比率につきましては、原則、小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで記入しています。

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 私学情報提供システムにおける「令和4年度財務比率表(大学法人(系統:保健系学部))」によります。

## (3) 事業活動収支計算書関係

### ①事業活動収支計算書の状況と経年比較

(単位:千円)

科目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	2,904,022	3,004,509	3,254,038	3,641,467	3,755,080
		手数料	61,101	64,129	65,211	64,099	59,675
		寄付金	10,264	11,491	59,416	433,799	13,933
		経常費等補助金	409,422	572,091	606,327	801,737	870,131
		付随事業収入	81,605	68,566	87,911	107,840	107,863
		雑収入	104,364	66,941	87,944	84,320	90,923
		教育活動収入計	3,570,780	3,787,728	4,160,850	5,133,264	4,897,608

科目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
教育活動収支	事業活動支出の部	人件費	1,888,911	2,143,429	2,264,857	2,533,095	2,539,394
		教育研究経費	1,036,149	1,206,174	1,240,508	1,453,069	1,616,340
		管理経費	566,211	504,044	423,289	493,888	552,441
		徴収不能額等	0	0	0	13,867	1,255
		教育活動支出計	3,491,272	3,853,648	3,928,655	4,493,921	4,709,430
教育活動収支差額		79,507	△65,919	232,195	639,343	188,177	

科目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
教育活動外収支	事業活動収入の部	受取利息・配当金	52	1,682	1,989	2,253	2,455
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	52	1,682	1,989	2,253	2,455
	事業活動支出の部	科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		借入金等利息	11,466	14,010	17,213	9,990	22,299
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
		教育活動外支出計	11,466	14,010	17,213	9,990	22,299
教育活動外収支差額		△11,413	△12,327	△15,223	△7,736	△19,844	

経常収支差額		68,093	△78,246	216,971	631,606	168,333
--------	--	--------	---------	---------	---------	---------

科目		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
特別収支	事業活動収入の部	資産売却差額	0	3,465	0	0	1,208
		その他の特別収入	15,638	31,298	8,334	4,178,872	283,562
		特別収入計	15,638	34,763	8,334	4,178,872	284,771
	事業活動支出の部	科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
		資産処分差額	120,912	64,517	18,082	11,826	674,942
		その他の特別支出	0	0	0	0	0
		特別支出計	120,912	64,517	18,082	11,826	674,942

## 第三 財務の概要

特別収支差額	△105,274	△29,753	△9,747	4,167,046	△390,171
予備費					
基本金組入前当年度収支差額	△37,180	△108,000	207,224	4,798,652	△221,838
基本金組入額合計	△200,000	△755,139	△343,489	△5,980,792	203,129
当年度収支差額	△237,180	△863,140	△136,265	△1,182,139	△18,708
前年度繰越収支差額	△4,502,836	△4,309,462	△5,172,602	△5,308,867	△6,491,007
基本金取崩額	430,555	—	—	—	323,161
翌年度繰越収支差額	△4,309,462	△5,172,602	△5,308,867	△6,491,007	△6,186,554

(参考)	事業活動収入計	3,586,470	3,824,175	4,171,175	9,314,390	5,184,835
	事業活動支出計	3,623,651	3,932,176	3,963,950	4,515,738	5,406,673

※単位表示は、千円未満切り捨てのため、合計等が一致しない場合があります。

### ②財務比率の経年比較

比率名	算式	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	全国平均
人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	52.9%	56.6%	54.4%	49.3%	51.8%	51.3%
教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	29.0%	31.8%	29.8%	28.3%	33.0%	38.0%
管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	15.9%	13.3%	10.2%	9.6%	11.3%	9.5%
事業活動収支差額比率	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-1.0%	-2.8%	5.0%	51.5%	-4.3%	0.1%
学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	81.3%	79.3%	78.2%	70.9%	76.6%	48.6%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	1.9%	-2.1%	5.2%	12.3%	3.4%	0.4%

※財務比率につきましては、原則、小数点以下第2位を四捨五入して小数点第1位まで記入しています。

※全国平均は日本私立学校振興・共済事業団 私学経営情報センター 私学情報提供システムにおける「令和3年度財務比率表(大学法人(系統:保健系学部))」によります。

## 2. その他

### (1) 有価証券の状況

区分	銘柄	数量	帳簿価額	時価	表示科目
株式	(株) 藍野大学事業部	400口	20,000千円	—	有価証券
	計	400口	20,000千円		

※非上場株式であり、市場価額はありません。

### (2) 借入金の状況

(単位:千円)

借入先	期末残高	利率	返済期限	担保等
日本私立学校振興・共済事業団	4,072,370	0.010	2026年3月17日	土地・建物
		0.600	2029年9月17日	
		0.500	2038年9月15日	
		0.500	2039年9月15日	
		1.400	2053年3月15日	
りそな銀行	420,016	0.440	2030年3月29日	土地・建物
関西みらい銀行	185,000	0.640	2031年3月31日	—
合計	4,677,386	—	—	—

### (3) 学校債の状況

本法人は、学校債の発行はしていません。

# 第三 財務の概要

## (4) 寄付金の状況

本法人は租税特別措置法施行令第26条の28の2第1項第2号に規定する要件を満たす法人として、卒業生や保護者、教職員、民間団体・企業などを対象とし、本法人が設置する学校の校舎増改築および設備充実事業その他教育活動の充実のために必要な経常経費に充当することを目的に寄付金募集を行っています。2023年度は、大阪阿倍野キャンパスプロジェクト（明浄学院高等学校校舎建設）に係る特別寄付を募集しました。

2023年度 寄付金募集状況 (単位：千円)

対象	種類	件数	金額
4月～3月	一般寄付金収入	11	275
	特別寄付金収入	271	12,896

## (5) 補助金の状況

2023年度における補助金交付額は1,149,259千円となりました。内訳は以下のとおりです。

(単位：千円)

補助金名称	対象校	交付額
私立大学等経常費補助金	大学・短期大学部	229,580
授業料等減免費交付金	大学・専門職大学・短期大学部	172,770
大阪府私立高等学校等経常費補助金	高等学校	338,683
大阪府他高等学校等授業料支援補助金	高等学校	125,997
大阪府私立高等学校等就学支援金事務費他	高等学校	3,100
令和5年度私立学校施設整備費補助金他	高等学校他	67,791
私立学校振興事業費補助金他	専門職大学	196,500
都市緑化を活用した猛暑対策事業補助金	大学	14,837
合計		1,149,259

## (6) 収益事業の状況

該当事項はありません。

## (7) 関連当事者等との取引の状況

### ①関連当事者

(単位：千円)

属性	役員、法人等の名称	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	議決権の所有割合	関係内容		取引の内容	取引金額	勘定科目	期末残高
					役員の兼任等	事業上の関係				
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している法人	医療法人恒昭会(茨木市高田町)	—	病院	—	兼任2人	実習施設	健康診断委託等	24,190	—	
							実習費	24,154	—	
						賃貸契約	賃貸収入	35,541	前受金	228

### ②出資会社

(単位：千円)

会社の名称	事業内容	資本金等	出資割合		取引の内容	役員の兼任・報酬の有無等
			学校法人	その他		
株式会社 藍野大学事業部	<ul style="list-style-type: none"> <li>書籍販売、各種物品販売業務</li> <li>施設設備のメンテナンス業務</li> <li>人材派遣業務</li> <li>学生食堂・コンビニ経営</li> <li>運用SE業務</li> </ul>	20,000	20,000 (100%)	0 (0%)	書籍、各種物品販売、施設設備のメンテナンス、人材派遣、学生食堂、コンビニ経営等を行い、教育研究活動の満足度向上に貢献している	兼任2人 報酬無し

# 第三 財務の概要

## (8) 学校法人間財務取引

該当事項はありません。

## 3. 経営状況の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

### (1) 経営状況の分析、決算の概要

2023 年度決算は、資金収支については資金収支計算書の前年度繰越支払資金 2,246,952 千円から、収入・支出を加減算した結果、翌年度繰越支払資金 2,811,401 千円で着地し、支払資金の増減額は、564,449 千円増となりました。

支払資金は、活動区分資金収支計算書に記載のとおり、教育活動による資金収支は 488,090 千円を計上しました。施設整備等活動による資金収支は、びわこ八日市キャンパス取得に係る補助金、大阪富田林キャンパスの移転予定に伴う施設設備売却収入、第 2 号基本金の取崩等により 1,003,659 千円の収入を確保した一方、大阪阿倍野キャンパス総合整備計画 第一期の工事完成及びびわこ八日市キャンパスの整備を主とした 3,228,970 千円の支出が行われたため、△2,499,945 千円を計上しました。

その結果、教育活動及び施設整備等活動による資金収支は△2,011,854 千円を計上することとなりました。そのため、主に日本私立学校振興・共済事業団から 2,731,000 千円の借入れを行い、返済支出の純額 2,511,000 千円等で填補しました。

企業での損益計算書にあたる事業活動収支については、教育活動収入が 4,897,608 千円となり、予算比 8,023 千円増、前期比 235,656 千円の減収となりました。この減収の要因は、2022 年度に行った明浄学院高等学校の設置者変更手続きにより、明浄学院高等学校が有していた現金を一般寄付金として約 425,000 千円で計上した影響があり、この影響を除くと法人全体で 190,000 千円の増収となります。この増収の要因は、主にびわこリハビリテーション専門職大学の学年進行による学生数の増加及び明浄学院高等学校の生徒募集の良化による学生生徒等納付金収入の増収と経常費等補助金の増加によるものです。人件費、教育研究経費、管理経費については、人件費が前期比 6,298 千円増、予算比 6,605 千円減となり、前期比、予算比ともに概ね適正執行となりました。教育研究経費については、前期比 163,270 千円増、予算比 37,056 千円減となりました。前年度に比べ増加した要因は、主にコロナ環境の変化による実習費の増加（報酬・委託・手数料：前期比 94,356 千円増）や大阪阿倍野キャンパス総合整備計画 第一期の工事（新校舎竣工）に係る消耗品の購入（消耗品費：前期比 39,056 千円増）などの影響です。教育研究経費の予算比 37,056 千円減は、光熱水費、修繕費等の予算未執行を要因とするものです。管理経費については、前期比 58,552 千円増、予算比 73,759 千円減となりました。前年度に比べて増加した原因は主に大阪阿倍野キャンパス総合整備計画に伴う委託費約 27,000 千円及び最重点課題である学生確保のための広報費約 27,000 千円の増加によるものです。管理経費の予算比 73,759 千円減については、消耗品費、水道光熱費、報酬・委託・手数料等の予算未執行によるものです。教育活動支出は総額 4,709,430 千円となり、前期比 215,509 千円増、予算比では 116,166 千円減となりました。

教育活動収入と教育活動支出の差額である教育活動収支差額は 188,177 千円の収入超過となり、借入金利息 22,299 千円等を加味した経常収支差額は、168,333 千円のプラス収支となりました。前期比 463,273 千円悪化した形となりますが、前述の明浄学院高等学校の設置者変更に係る一般寄付金約 425,000 千円を勘案すると、実態の経常収支差額は、前期比 38,000 千円程度の減と想定され、大阪阿倍野キャンパス総合整備計画 第一期（新校舎竣工）に係る消耗品の購入等（消耗品費：前期比 39,056 千円増）を鑑みれば、前年並みの経営を維持したと言えます。

特別収支では、びわこ八日市キャンパス取得に係る補助金及び明浄学院高等学校の新校舎に対する補

## 第三 財務の概要

助金が施設設備補助金として利益計上しており、主に大阪富田林キャンパス売却に伴う売却額と簿価との差額を資産処分差額として損失処理しています。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は△221,838千円となり、基本金組入額合計 203,129千円を加味し、当年度収支差額は△18,708千円となりました。

### (2) 経営上の成果と課題

2023年度は、2030年度を目標年度とする長期ビジョン「AINO VISION 2030」で示されたロードマップに従い、大阪阿倍野キャンパス総合整備計画 第一期の工事である高校新校舎が竣工し、また、新たにびわこ八日市キャンパスを設置すべくその施設整備計画が完了しました。

学校法人の主たる収入である学生生徒納付金収入は在 student 数の影響を受けますが、2023年度における学校法人全体の在 student 数は、在 student 数 2,912人（うち新入生は 916人）となりました。2022年度と比較すると在 student 数は 107名増、新入生は 85名減、収容定員充足率は 95.3%、入学定員充足率は 97.3%となり、2022年度と比べいずれも低下しました。

このような状況下にあっても、中期財務計画に基づき定めた既定予算を適正執行することで当該年度の教育研究活動を着実に遂行し、日本私立学校振興・共済事業団が示す「定量的な経営判断指標に基づく経営状態」の区分は、正常状態である「A3」を保持することができました。

一方、課題として、2023年度の本業である教育活動の収支状況を示す教育活動収支差額は、藍野大学、藍野大学短期大学部、藍野高等学校はプラス収支となっていますが、びわこリハビリテーション専門職大学、明浄学院高等学校についてはマイナス収支となりました。

専門職大学は、2023年度に完成年度を迎えましたが、新入生は 105名、入学定員充足率は 87.5%、在籍者数は 348名、収容定員充足率は 72.5%にとどまっており、学生確保への早急な対応が必要となっています。

明浄学院高等学校は、2024年度に藍野高等学校と統合され、在籍者数は 2023年度に比べ 160名近くの増となる見込みです。また、収容定員充足率は 100%を下回る見込みであるものの統合後の入学者数増が見込まれているため、年度の進行に伴い解消されるものと考えています。

短期大学部全体としては、2023年度の入学定員充足率、収容定員充足率が 100%を超えていますが、2024年度には第二看護学科が大きく入学定員充足率を割り込む見込みであり、それに伴い収容定員充足率も 100%を下回る見込みとなっているため、第二看護学科についても早急な対応措置が必要となっています。

### (3) 今後の方針・対応方策

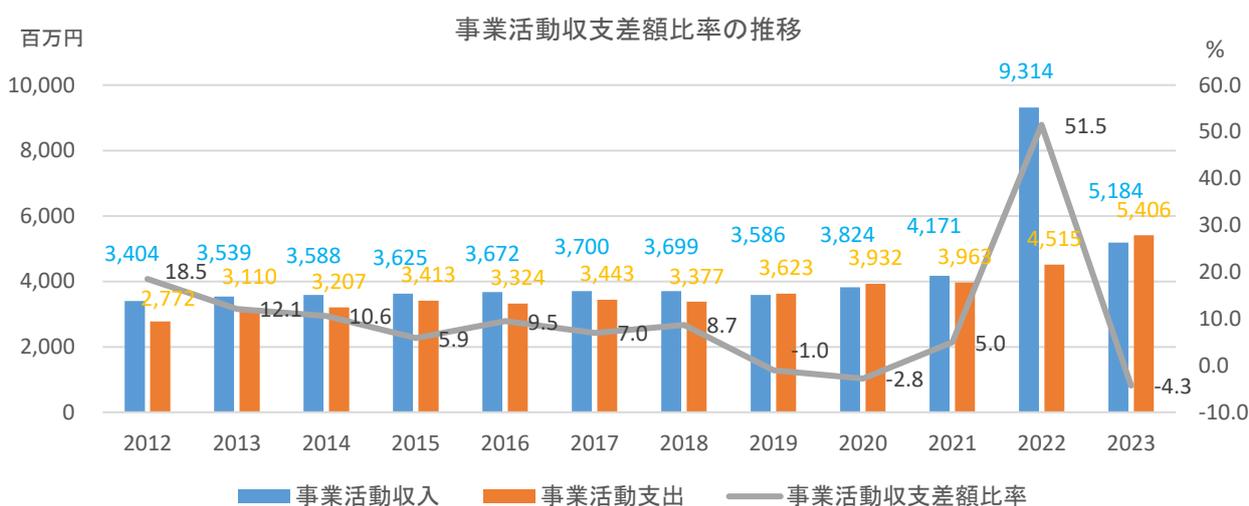
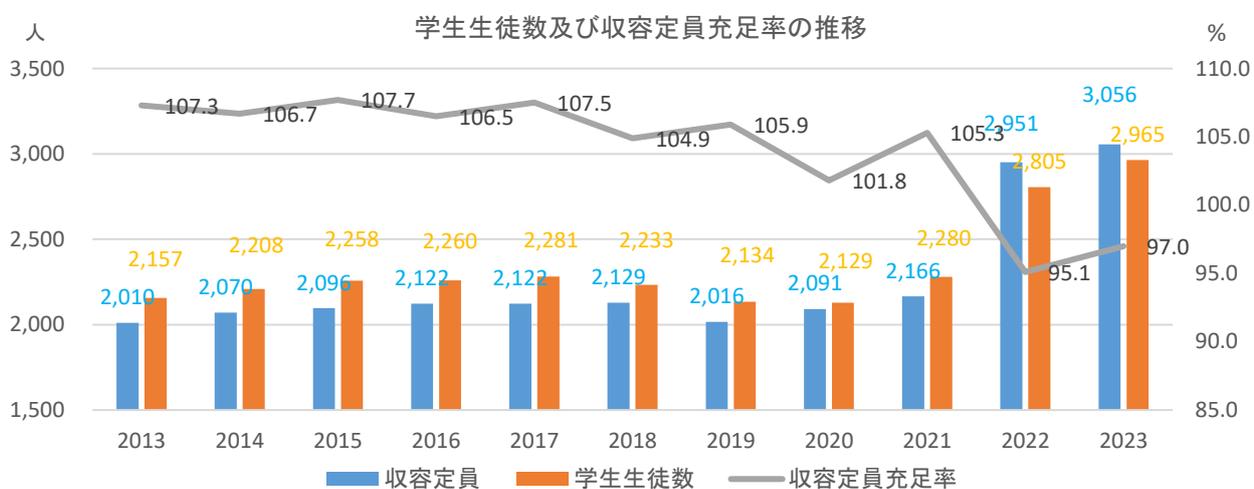
「AINO VISION 2030」のロードマップでは、2024年度には大阪阿倍野キャンパス総合整備計画 第二期の工事である藍野大学短期大学部の新校舎の改修及び機器への投資並びに藍野大学創立 20周年事業としてのトレーニングセンター建設、シミュレーション施設の設置、2025年度には藍野大学短期大学部第一看護学科、専攻科、第二看護学科の大阪阿倍野キャンパスへの移転、藍野大学の 2 研究科 2 学部 5 学科 1 専攻科への改組転換など大きなプロジェクトが計画されています。

これまでの施設設備のための借入金は、2024年度には約 60 億円程度になると見込まれ、年間の約定返済及びその利息額は、約 6 億円に上ります。

今後、投資が一巡した後は、メリハリをつけた予算執行が法人全体として必要となるため。定量的な経営判断指標に基づく経営状態」の区分「A3」を目標に作成している「中期財務計画」において教育

### 第三 財務の概要

活動資金収支差額＋施設設備等活動資金収支差額が概ね6億円を保持できるよう、中期財務計画を状況変化や予算・決算時に随時更新し、それに基づき策定される予算を適時適切に執行することで、安定的な財政基盤を確立し、ステークホルダー及び社会の期待に応えていきたいと考えています。



※2022年度に明浄学院高等学校を学校法人明浄学院から本法人の設置校へ変更していることから、数値が大きく変動しています。



## 藍野大学

〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-4



## びわこリハビリテーション 専門職大学

〒527-0145 滋賀県東近江市北坂町967



## 藍野大学短期大学部

〒567-0018 大阪府茨木市太田3-9-25 (大阪茨木キャンパス)

〒584-0076 大阪府富田林市青葉丘11-1 (大阪富田林キャンパス)



## 藍野高等学校

〒567-0012 大阪府茨木市東太田4-5-11



## 明浄学院高等学校

〒545-0004 大阪府大阪市阿倍野区文の里3-15-7

〒567-0011 大阪府茨木市高田町1-22



学校法人 藍野大学

EDUCATIONAL FOUNDATION AINO UNIVERSITY